

科目名	宗教学		対象 単位数 必修	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修/ 短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修/ 短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修/ 短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修/
担当教員	福島 真太郎			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。</p> <p>〔授業の概要〕</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。 本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。 本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。</p>			
達成目標	<p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>			
受講資格	特になし	成績評価方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
教科書	『心経禅解—生活禅から『般若心経』を読む』（浄慧著、東京・山喜房佛書林、2018年）。購買部で買い求めることができる。教室でも販売する。3800円（税別）			
参考書	特になし			
学生への要望	ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時（12時～12時40分）。担当教員の研究室（創学館No. 5）			
自学自習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に1時間程度の予習をすること。 ・事後にノート整理などのために1時間程度の復習をすること。 			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。
2	生活と宗教（1）—禅の教えと歴史	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にししながら、生活における禅の役割を考える。
3	生活と宗教（2）—生活の中の「禅」	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。
4	生活と宗教（3）—「生活禅」とは何か	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。
5	生活と宗教（4）—だるまさん・ダルマと達磨	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがある。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。
6	生活と宗教（5）—般若心経	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。
7	生活と宗教（6）—こころと心	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にするものである。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。
8	生活と宗教（7）—禅マンガについて	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。
9	生活と宗教（8）—宗教における悩みの対処法	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	生活と宗教（9）－アニメにおける宗教的要素 其の一	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。
11	生活と宗教（10）－アニメにおける宗教的要素 其の二	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。
12	生活と宗教（11）－生活と宗教との関わり 其の一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。
13	生活と宗教（12）－生活と宗教との関わり 其の二	前回の続き。「人間らしく生きるためにはどうしたらいいか」「人間の本質とは何か」などの問題について、教科書を参考にしつつ考えてみる。
14	生活と宗教（13）－まとめ	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。
15	最終回－まとめ其②	授業の内容を踏まえつつ、本学の建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えてみることにする。

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛, 阿部 優子		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル、noa出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日2・4限, 家政学館4階情報処理教育研究室		
自学自習	予習 授業で実施予定の内容を教科書で確認する。(約0.5時間) 復習 教科書の練習問題を実施する。また確認テストや実践ドリルを実施する。(約1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、To, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ

科目名	総合英語コミュニケーション	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ		
開講期	I		
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>		
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Active, Enthusiasm (10%) 2. Quizzes, Homework (40%) 3. Final Cumulative Test (50%)
教科書	Impact Conversation 1 by Kristen Sullivan & Todd Beuckens		
参考書	Pearson Longman Asia ELT 2013		
学生への要望	Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Review all material including textbook and quiz material.		
オフィスタイム	Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00 時間：火・木の 13:00~17:00 時限 場所：83年館 3F 837研究室		
自学自習	Do self-study and review at home. Self-study and review should be equivalent to approximately twice the classroom hours (e.g. 1 classroom hour = more than 2 self-study hours). Do regular listening of all audio files.		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	Introduction	Unit 1---Guess Where I' m From---Pages 9-12, 81 CD 1-8 Explain Textbook, Tests, Quiz, Homework, Attendance, etc.
2	Unit 1	Unit 1---Let' s Talk About It: Who are you? Pages 9-12, 81 CD 2-8
3	Unit 2	Unit 2---Comfy Seats Pages 13-16, 82 CD 9-15 Quiz
4	Unit 2	Unit 2---Entertainment: Watching movies Pages 13-16, 82 CD 9-15 Quiz
5	Unit 3	Unit 3---A Trip To The Art Gallery Pages 17-20, 83 CD 16-22 Quiz
6	Unit 3	Unit 3---Hobbies: Which one do you like? Pages 17-20, 83 CD 16-22 Quiz
7	Unit 4	Unit 4---My Quirky Family Pages 21-24, 84 CD 23-29 Quiz
8	Unit 4	Unit 4---Families: What' s your family like? Pages 21-24, 84 CD 23-29 Quiz

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	Unit 5	Unit 5---Scaredy Cat Pages 25-28, 85 CD 30-36 Quiz
10	Unit 5	Unit 5---Personality: Are you scared? Pages 25-28, 85 CD 30-36 Quiz
11	Unit 6	Unit 6---The Commute Pages 29-32, 86 CD 37-44 Quiz
12	Unit 6	Unit 6---Work: Getting to work. Pages 29-32, 86 CD 37-44 Quiz
13	Unit 7	Unit 7---A Close Shave: Experiences Pages 33-36, 87 CD 45-49
14	Unit 8	Unit 8---Excuses, Excuses: Health Pages 37-40, 88 CD 50-56
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review

科目名	キャリアデザインⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員	桑野 聡, 仲田 佐和子			
開講期	I			
授業概要	「キャリア」(人生・生涯)は、選択および選択の結果生じる役割の連鎖によって形成されますが、それをコントロールするためには、自分自身と自分がこれから進む世界を正しく認識し、望ましい職業観・勤労観に基づいて進路選択を行う必要があります。特に女性の場合は、男女共同参画社会においてライフ・ワークバランスの舵取りをすることが、キャリア形成にとって重要な意味をもつようになってきました。これらのことを踏まえつつ、本講義では、まず自分の進路に対する意識を高めるための動機づけを行い、さらに進路情報の理解、および自己情報の理解を試みます。最後に、職業と労働に焦点を絞り、具体的な進路選択に向けた準備を実施します。			
達成目標	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、このようなキャリア教育の一環として、就職や労働に限定しない幅広い視点から自己の進路について考えることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)を身に付け、主体的にライフキャリアを構築できるようにします。 授業終了時の達成課題は、自分の夢を実現するための具体的な目標を自主的にレポートにまとめることができる、です。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席状況(2/3以上)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集(『キャリアデザイン』)を配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。 			
オフィスタイム	桑野は、火曜のⅡ時限目(10:30~12:00)考古学研究室 その他の担当教員については、各人の指示に従ってください。			
自学自習	半期15回全体のスケジュールを把握し、今自分が何をすべきなのかを考えることが大事です。予習として教材集をよく読み、授業時に配布された資料や提出物をきちんとファイリングすることに気を付けましょう。そして、成績評価に必須の二つのレポートをはじめとする課題の提出期日と提出の際のマナーに気を配りましょう。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーションーキャリアデザインの意義と目的 4月10日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考える。
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史 4月17日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説する。
3	「かかわる力」を育てる(1)ー社会人としての素養を身に付ける 4月24日	大学生として学ぶための準備として、社会人としてのマナー(携帯電話・コミュニケーション)に関する知識を学ぶ。
4	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力 5月8日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングする。
5	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成 5月15日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認する。
6	「つくる力」を育てる(3)ー仕事でのパソコン活用マナー 5月22日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学ぶ。
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くことを考える 5月29日	職業選択理論(マッチング理論・ライフキャリアの虹など)を解説し、職業レディネステストを実施して分析する。
8	「かかわる力」を育てる(3)ー仕事を考える 6月5日	前回の職業レディネステストを踏まえたフォローワークを実施する。個人とグループでさまざまな職業を知り、業種・職種の違いなど仕事を考えるワークを実施する。
9	「かかわる力」を育てる(4)ー女性のライフコースの多様化 6月12日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考える。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	「かかわる力」を育てる(5) -働くためのルール 6月19日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考える。
11	「かかわる力」を育てる(6) -アサーショントレーニング① 6月26日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学ぶ。
12	「かかわる力」を育てる(7) -アサーショントレーニング② 7月3日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学ぶ。
13	総合演習(1) -女性と就業 について① 講演 7月10 日	外部講師による講演を実施する。
14	総合演習(2) -女性と就業 について② グループ討論 7月17日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成する。
15	まとめ -自分のキャリア を創ろう! 7月24日	自己評価票の記入・授業アンケート、フリートークによる振り返りなどを実施する。

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会20%から「認」 評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		
自学自習	事前学習のビジネスマナーは練習を繰り返し、実践を通して活用できるようにして下さい。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	インターンシップの概要 4/19 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認。
2	インターンシップの心構え 5/17 (Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画で見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)
3	企業研究 (講演) 5/24 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどう生きるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/21 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。
5	事前指導 (マナー講座) 7/12 (Vコマ) □	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。 就業体験先の打合せをする。
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究) 7/19 (Vコマ) □	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。
7	インターンシップ(就業体験)	各企業において、夏季休業中(8月上旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。
8	インターンシップ報告会 9/4 (Iコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。
9	インターンシップ報告会 9/4 (IIコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。

科目名	地域創成ゼミナール		
担当教員	桑野 聡, 福島 寅太郎, 浅野 章, 齊藤 弘久, 会田 容弘, 知野 愛, 小松 太志, 松田 理香, 山口 猛, 仲田 佐和子, 阿部 優子, 黒沼 令,	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
開講期	通年		
授業概要	本学科の目指す、地域活動に貢献できる人材の育成を進めていく上で重要な基礎を育むことを目的とする。具体的には、「地域」を考えるための基礎力として身近な生活圏の歴史や文化を学び、「地域」が人々の生活の連鎖の中で作り上げられてくる歴史的・社会的共同体であることを確認し、地域共同体形成への基本姿勢を準備する。まず福島県と郡山市を具体例に地域の抱える問題や活動を学び、次にもみじ会を題材に具体的なプロジェクトの立ち上げと実施を学ぶ。これを踏まえて後期では、近代市民社会としての現代において、私たちが「地域」とどのように関わり、そして育てていくのかをさまざまな地域活動の実例を学ぶことで考え、次年度の具体的な活動に繋げていく。		
達成目標	前期の事例で学んだ地域形成のさまざまな切り口を例に、学生各自がそれぞれの地域共同体とどのように関わっていくことが出来るかを主体的に考え、積極的に具体的な取り組みに繋げていくことが出来ることを目的とする。		
受講資格	地域創成学科1年必修	成績評価 方法	各回授業の自己評価ペーパーとワークの総合評価
教科書	特に使用しません。		
参考書	必要に応じて随時授業の際に提示します。		
学生への要望	2年次の地域創成プロジェクト演習に連動する地域創成学科の必修科目です。学びを行動に繋ぐ主体性・積極性を期待します。		
オフィスタイム	各教員のオフィスタイムを参照		
自学自習	身近な地域の情報にアンテナを立てることが予習・復習となります。新聞や地域の広報誌、図書館・博物館（美術館などを含む）・公民館などの公共の教育・文化施設の活動に注目し、積極的に参加しましょう。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス (齋藤美・桑野) 4月11日	「地域」とは何か、を問いかけ、授業の目的と進め方を解説することで、次回からの学習の導入を行う。
2	地域を学ぶ① (桑野) 4月18日	地域を学ぶモデルケースとして「福島」を扱うため、震災後の福島県の抱える問題の基本を確認する。
3	地域を学ぶ② (佐藤愛) 4月25日	福島県の歴史を概観して地域の多様性を確認すると共に、地域活動の発想を学ぶ。
4	地域を学ぶ③ (會田) 5月2日	福島県の歴史・文化を使った地域活動について事例紹介を通じて考える。
5	地域を学ぶ④ (浅野) 5月9日	福島県の美術活動について学び、アートを活かした地域活動の発想を得る。
6	地域を学ぶ⑤ (阿部) 5月16日	福島県の食文化について学び、食を活かした地域活動の発想を得る。
7	地域を学ぶ⑥ (福島) 5月23日	福島県の伝統文化・宗教について学び、地域活動の発想を得る。(集会時実施予定)
8	地域を学ぶ⑦ (知野) 5月30日	福島県の女性の歴史を踏まえて、生活や家族と社会の関係に着目して地域活動の発想を得る。
9	地域活動を学ぶ① 6月6日	実際に地域活動を行っている行政や企業の事例を伺い、地域貢献のニーズのあり方を学ぶ。
10	地域活動を学ぶ② 6月13日	実際に地域活動を行っている行政や企業の事例を伺い、地域貢献のニーズのあり方を学ぶ。
11	地域活動を学ぶ③ 6月20日	実際に地域活動を行っている行政や企業の事例を伺い、地域貢献のニーズのあり方を学ぶ。
12	地域活動を考える① 6月27日	「もみじ会」を題材に、グループに分かれて「提案コンペ」を実施するための全体説明会を実施する。
13	地域活動を考える② 7月4日	グループ別に①アイデア・発想法を学び、②企画書をまとめる作業を行う。
14	地域活動を考える③ 7月11日	グループ別に前回の作業を継続する。
15	地域活動を考える④ 7月18日	グループ別に制作した「もみじ会案」を発表することで③プレゼンテーションを学び、実施案を決定する。
16	地域活動を考える⑤ 9月12日	採用案に基づいて④スケジュール管理を学びながら、もみじ会開催(10月6・7日)に備える。
17	地域活動を考える⑥ 9月19日	採用案に基づいて④スケジュール管理を学びながら、もみじ会開催(10月6・7日)に備える。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	地域活動を考える⑦ 9月26日	採用案に基づいて④スケジュール管理を学びながら、もみじ会開催（10月6・7日）に備える。
19	後期ガイダンス 10月17日	「みみじ会」を題材としたプロジェクト実施体験の反省を行い、後期の授業の行い方を解説する。
20	モデル演習① 10月24日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
21	モデル演習② 10月31日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
22	モデル演習③ 11月7日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
23	モデル演習④ 11月14日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
24	モデル演習⑤ 11月21日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
25	モデル演習⑥ 11月28日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
26	モデル演習⑦ 12月5日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
27	モデル演習⑧ 12月12日	次年度実施予定のプロジェクトの概要を説明する。
28	モデル演習⑨ 12月19日	モデル演習のまとめとして、紹介された次年度実施予定のプロジェクトの参加学生を決定する。
29	ブレ・プロジェクト演習①1月9日	配属毎に次年度の活動のための準備に入る。
30	ブレ・プロジェクト演習②1月16日	同上

科目名	家族社会学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	知野 愛		
開講期	I		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。		
達成目標	①少子社会の定義や現状を理解している。②高齢社会の定義や現状を理解している。③5回の課題レポートを提出し、最終課題レポートをまとめて提出する。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①課題レポート30点 ②授業中のリアクションペーパー20点 ③最終レポート50点
教科書	なし。プリントを配布します。		
参考書	その都度紹介します。		
学生への要望	課題レポート(宿題)の提出は5回ありますが、授業内容をこのシラバスで確認し、事前学習として主体的に学ぶことを求めます。		
オフィスタイム	火曜V限または木曜IV限、家政学館4階福祉情報専攻研究室		
自学自習	事前学習：課題レポートの作成、課題レポートがない回には読んでくるべき資料を事前配布する(1時間) 事後学習：次回の課題レポートの作成、課題レポートがない回には授業で学んだ資料からポイントをノートに箇条書きし要点を復習する(1時間) 最終課題レポートは、図書館へ行き関連図書を探し、独自性のあるレポートを作成すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業の内容と進め方、授業のねらい及び評価の方法について説明する。資料を配布し、家庭や世帯の定義、社会を構成する小集団としての家庭の意義について考える。
2	家族と法律	結婚・婚約、婚姻の要件、結婚の効果、親子関係の成立等に関する法律的側面について理解する。民法と比較して考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」を調べて次回提出。
3	戸籍と家族	戸籍という面から家族を考える。課題レポート①「婚姻届の提出について」レポート課題提出を確認し代表者が発表する。戸籍に見る人の一生、戸籍の様式や記載内容、様々な事例について学ぶ。
4	戦後日本の人口変動	戦後日本の合計特殊出生率の変化、生産年齢人口や高齢者人口割合の変化等に注目し、家族の変化について考える。戦後のベビーブーム、高度経済成長期の家電製品の普及と家族の変化について考える。課題レポート②「少子社会とは何か」、各自で調べて次回提出する。
5	少子社会の現状	課題レポート②「少子社会とは何か」を提出確認し代表者が発表する。日本の少子化に関する統計資料を基に、少子化の定義、問題点等について焦点をあて、現代の家族の置かれている状況を考える。
6	中間振り返り・ポイント確認	家族の機能とは何かを考え、ここまで学んだ内容を振り返り、ポイントを確認する。課題レポート③「郡山市の子育て支援」について、各自で調べて次回提出する。
7	少子化と子育て支援	課題レポート③「郡山市の子育て支援」の提出確認をし代表者が発表する。少子社会における子育て支援の具体的な事例を知り、子育て家庭の現状や家族の置かれている状況を考える。
8	地域における子育て	少子社会の背景の一つに母親の孤立ということが挙げられ、子育ての地域ネットワークづくりが重要である。子育て支援策を欧米諸国の事例から学ぶ。
9	家族が抱える諸問題(1)	経済的な問題、家族の不和、育児不安や虐待の問題等に焦点をあて現代の家族の置かれている状況を考える。課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」(1つのキーワードを選ぶ)ということをして次回提出する。
10	家族が抱える諸問題(2)	各自が作成した課題レポート④「現代の家族が抱える諸問題」のレポートについて、全員が発表し全体で質疑応答する。
11	中間振り返り・ポイント確認	前回の討議の結果生じた疑問点などを話し合う。後半では、家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題という、これまでの授業内容の確認と補足を行い、ポイントを確認する。
12	高齢化と世帯の変化	国勢調査の結果から、人口減少と世帯数の増加、世帯構造の変化に注目する。様々な事例を読み、高齢者とそれを取り巻く家族の様子を知る。その一方で、諸外国では高齢者の生活はどうかの目を向け、次回までに課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」を作成する。
13	諸外国の高齢者について(発表)	課題レポート⑤「諸外国での高齢者の暮らしと家族について」のレポートについて各自が発表し全体で討議する。後半では諸外国の高齢者の生活を概観した資料を読みまとめる。
14	戦後日本の家族の変化と高齢者の生活の変化	戦後日本における家族の変化と高齢者の生活の変化に注目する。また、現在の要介護高齢者と家族を取り巻く社会状況の変化に着目する。最終レポートのテーマは「現代家族が抱える諸問題」(副題は各自が決めて焦点を絞ること)。
15	まとめ・振り返り	この授業を通して学んだ事項を振り返りまとめとする。家族の形成と法律的側面、少子化の進展と子育て支援、現代家族が抱える諸問題、高齢社会の現状、高齢者の生活、高齢者介護と家族について、内容を確認・補足し、授業のポイントを確認する。最終レポートを指定日時までに提出する。

科目名	生活芸術学入門	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章, 齊藤 弘久, 小松 太志, 黒沼 令, 松田 理香		
開講期	I		
授業概要	生活芸術学入門では芸術や美についてのさまざまな考え方に触れながら、生活と芸術（美術を中心に）の関わりを考えます。この講義では地域創成学科アート&デザイン系教員によるオムニバス形式をとり、各教員の専門を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深める一助とします。また担当教員の紹介する芸術作品などにも幅広く触れ、それらを題材として意見を出し合いながら生活と芸術の関わりを考える授業とします。		
達成目標	オムニバス形式として各教員の高度な専門性を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深めることを目標とします。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし（必要な資料等は各担当教員が準備します）		
参考書	新版造形の基礎技法（建帛社） 美学辞典（竹内敏雄編集/弘文堂）		
学生への要望	生活芸術という概念をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
オフィスタイム	授業に関する質問は各教員の授業のない時間帯に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】オムニバス各分野の作品集などを事前に閲覧しておく。（1時間） 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や博物館、画廊、デザインショップなどに足を運び、実物の作品に接してみる。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生活芸術学入門のガイダンス及び絵画（1）	この授業の目標と内容、および授業の進め方、授業資料・参考書などについてのガイダンス。また絵画についての考え方を解説する。
2	絵画（2）	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し、愛され、生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないだろう。その理由を、参考資料を用いながら少しずつ細解いていく。
3	絵画（3）	絵画を中心とした参考作品画像を紹介、解説する。それを基に、生活の中での絵画の生かし方、楽しみ方、考え方を探っていく。授業後半に生活芸術学入門・絵画に関する簡単な小テストを実施する。
4	デザイン（1）	教員の自己紹介とグラフィックデザインにおける印刷との関係を解説。
5	デザイン（2）	「生活をデザインする」とか「人生をデザインする」とよく言われますが、いろいろ形を変えるデザインを考えて行きます。
6	デザイン（3）	ブランディングとデザインから見えてくる自己表現を考えます。
7	CGアート（1）	造形活動とキャリア形成の関係について考察します。コンピュータによる造形表現活動（デザイン含む）と担当教員のキャリアを話題として、自己のキャリアを考える契機とします。
8	CGアート（2）	地域創成学科においてコンピュータによる造形表現を学修する意義について理解を深めます。地域創成学科では、多様な芸術領域を横断して学修します。CGアートにおける学修と他領域の学修がどのような関わり合いを持ち、成果になり得るのかを過去の学生作品を紹介しながら解説します。
9	CGアート（3）	映像メディア表現に対する理解を深めます。映像メディア表現を中心として、メディアアート、デザイン分野の近年の動向を紹介します。
10	彫刻（1）	教員自己紹介を兼ねて自分の作品を紹介しながら、彫刻という表現活動が自己形成にどのように関係してきたか解説します。
11	彫刻（2）	彫刻という芸術分野が少しでも身近に感じられるよう地域創成学科で彫刻を学習する目的や意義など、これまでの学生の活動や作品を参考にしながら解説します。また地域創成学科で体験できる彫刻の技法や、制作過程など、具体的に紹介します。
12	彫刻（3）	現代の彫刻表現について、どのような時代的変化を経て来たか、これからどのような表現が求められているか、様々な作品を紹介しながら解説します。
13	デザイン（4）	教員の自己紹介を交えて生活の中にある身近なデザインについて考えます。
14	デザイン（5）	デザインファイル（ポートフォリオ）の参考例を紹介します。
15	デザイン（6）	ワークショップについて学びます。ワークショップは学びや創造のための手法であり、新しいアイデアを生み出す場として活用されています。自分の価値観や認識を変化させ、固定観念を崩すことに繋がります。デザインが、グループワーク、チームワークによって成り立っているということを解説します。

科目名	インターンシップ（福祉・情報）	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 1単位 選択	
担当教員	知野 愛, 山口 猛			
開講期	Ⅲ			
授業概要	この授業では、事前学習として、実習先企業（団体）を調べることやビジネスマナー、プレゼンテーションについて学習します。その後、企業（団体）等において就業体験をします。 就業体験は、福祉の職場と情報処理関連企業に分かれて行います。			
達成目標	1. 将来のキャリアに関連した就業体験で経験を積む。 2. 実際の職場のマナーやルール、働いている方とのコミュニケーションを通し、職業意識を高める。			
受講資格	福祉情報専攻2年生	成績評価 方法	事前学習30点、実習状況60点、実習成果報告10点	
教科書	特に指定しない			
参考書	随時配布する			
学生への要望	インターンシップに参加する目的を明確に持ち、積極的に取り組むこと			
オフィスタイム	山口(家政学館4階情報処理教育研究室) 月曜Ⅱ限、Ⅳ限 知野(家政学館4階福祉情報専攻研究室) 火曜Ⅴ限、木曜Ⅳ限			
自学自習	予習：実習先企業・施設について調べる。 復習：学んだマナーについて日頃から実践する。実習内容を実習レポートにまとめる。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	インターンシップの内容、心構え、この授業で目指していることを理解しましょう
2	実習先の概要	<情報> 実習先の企業が属する情報処理産業の産業構造や業務内容についての学習し、インターンシップで実習する業務の内容や位置づけについて理解を深める。 <福祉> 実習先の施設の種類や仕事内容、デイサービスセンターの一日の流れについて学ぶ。
3	仕事術	実際の職場では、仕事を円滑に進めるため仕事するための“術”を色々身につけなければならない。この内、実習に必要な「意志疎通と電話対応」についてビデオ学習を行う。
4	コミュニケーション	職場でのコミュニケーションについての学習。ビジネスの現場では、上司との会話、お客様への対応、電話対応など様々な場面で適切な言葉遣いが求められる。ビジネス敬語を中心に指導する。
5	事前学習	<情報> パワーポイント復習 実習先で行われる研修終了報告会では、パワーポイントを使用するため、既に学習しているパワーポイントの機能を復習し、研修報告に備える。 <福祉> 介護職としての心構え 福祉サービスの基本理念、介護保険制度の基礎知識を学ぶ。
6	事前指導	<情報> スライド作成 作成テーマを与え、テーマにそったスライドをパワーポイントを使用して、決められた時間内に完成される訓練を実施する。 <福祉> 介護スタッフとしての職業倫理 専門職としての価値観、守秘義務、高齢者を守る法律等を学ぶ。
7	事前指導	<情報> 発表訓練 スライドショーを使用し、実際にプレゼンテーションを参加者全員が実施し、スライドの評価、時間厳守、言葉遣い、話す速度、態度などを確認する。 <福祉> 接遇マナーと高齢者の理解 具体的な事例を通して、デイサービス職員としての接遇マナー、利用者への対応の仕方を学ぶ。
8	直前指導	実習先の紹介。実習日程の確認。交通手段調査。実習中の保険加入手続。実習ノートの書き方。実習に関する諸注意。
9	学外実習	<情報> 実習先訪問 1コマ分 経営理論・企業組織に関する基礎知識の解説と職場見学をする。また、実習の誓約書、入館手続き等の事務手続きを経験することにより、インターンシップで実習することの意識を高める。 <福祉> 実習先訪問 実習先施設であるデイサービスを訪問し、指導者に挨拶し実習に関する注意事項を再度確認する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	学外実習 1日目	<p>実際の実習スケジュールは別途計画表で管理する。5日間 1日を5コマ分とする。</p> <p><情報> オリエンテーション 就業時間、就業規則、勤怠等企業全体の規則や実習スケジュール、実習する職場の説明などを行い実習が円滑に出来る様に基礎的な知識を得る。電話応対、接客などもある為、ビジネスマナーについて学ぶ。</p> <p><福祉> デイサービス施設において介護補助の体験をする。 施設全体の状況を把握し、介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
11	学外実習 2日目	<p><情報> 受付 秘書業務の場合は、パソコンを使用した書類作成もある。受付の場合は、来社したお客様の対応を実践する。</p> <p><福祉> デイサービス施設において介護補助の体験をする。 デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
12	学外実習 3日目	<p><情報> 営業事務 営業事務では、お客様からの電話の取次ぎや受発注事務、総務では会社の仕組みや社内メール等の社内サービスを学ぶ。</p> <p><福祉> デイサービス施設において介護補助の体験をする。 介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
13	学外実習 4日目	<p><情報> インストラクター WordやExcelを中心に開催されているパソコン教室の補助インストラクターの実習をする。 自分自身のパソコンスキルが教える立場に立った場合、どの程度通用するか実体験する。</p> <p><福祉> デイサービス施設において介護補助の体験をする。 介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
14	学外実習 5日目	<p><情報> 成果報告会 4日間の実習成果をパワーポイントのスライドにまとめ、決められた時間を有効に使って各自が発表する。人に伝える為の効果的なプレゼンテーションを実践を通して学ぶ。他大学からのインターンシップ生と合同で実施する。</p> <p><福祉> デイサービス施設において介護補助の体験をする。 介護職の仕事の内容や一日の流れをつかむ。デイサービス利用者とのコミュニケーションの取り方、レクリエーションや食事の提供方法を実践的に学ぶ。</p>
15	まとめと事後の指導	<p>実習のまとめと報告 学内での実習体験発表。グループ討議。学外実習ノートの整理と提出。</p>

科目名	基礎学カトレーニング	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	知野 愛, 齊藤 弘久, 仲田 佐和子, 小松 太志, 山口 猛		
開講期	I		
授業概要	学生生活に必要な基礎的能力・資質を獲得し、自身の課題を見つけ、解決する技量、および授業聴講に必要な技量を養い、自学自習の学習習慣を身に付けます。また大学での講義の受け方、ノートの取り方から図書館の使い方、教員とのコミュニケーションの取り方を学ぶことで、大学生活を有益に活用するための準備を行います。更に小・中・高校で学んできた英国数理社の一般常識的な力を確認し、大学の専門教育に必要な基礎力を改めて準備すると共に、公務員試験や一般企業への就職活動を進めるための汎用的な能力の確保にも努めます。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上を行い、就職活動を想定したSPIや一般常識の対策方法を理解できる ・自主学習やグループ学習の習慣を身につける ・SPI模擬試験を受験する 		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	授業出席状況・態度、および課題達成状況を総合的に評価する。
教科書	シューカツワークBook SPI・就職適性試験対策eラーニング「国語カトレーニング講座」 SPI・就職適性試験対策eラーニング「計算カトレーニング講座」		
参考書	なし		
学生への要望	自分の現状を冷静に受け止め、短大生活2年間で成長しようとする主体的な気持ちと姿勢を持つことが大前提となることを自覚できること。		
オフィスタイトム	コーディネート担当の山口が全体の質問を受け付ける。 月曜日 2・4限、家政学館4階情報処理教育研究室口		
自学自習	事前学習：教科書課題の実施（目安時間 1時間） 事後学習：eラーニング問題の実施（目安時間 1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方を解説及び、実力確認テストの実施。
2	自主学習方法を学ぶ①	前回テストの講評を行います。その後、就職試験・公務員試験の特徴を確認し、どのような力が基礎力として求められるのかをSPIを例に解説します。これによって目的に合った学習方法を学ぶ必要性を確認し、就職部企画の有効活用を薦めます。
3	自主学習方法を学ぶ②	『書きこみ式「なりたい自分」を目指す シューカツワークBook』『SPI・就職適性試験対策eラーニング「国語カトレーニング講座」「計算カトレーニング講座」』を使った学習を解説します。
4	自主学習の実践①	シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。
5	自主学習の実践②	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）
6	自主学習の実践③	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）
7	自主学習の実践④	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）
8	自主学習の実践⑤	前回と同じ（シューカツワークBookに基づき、基礎学力「言語・非言語」の回答及び解説。SPI・就職適性試験対策eラーニングを用いたeラーニング学習の進捗確認及び解説を行う。回答箇所は、授業内で指示する。）
9	グループ学習方法を学ぶ	ラーニングcommons等を使ったグループ学習方法を理解する。
10	グループ学習の実践①	「私の望む学生生活」のグループ発表に向けたプレゼンテーションを考える。
11	グループ学習の実践②	「私の望む学生生活」のグループ発表を実施する。
12	学習方法の計画①	今後の学習について、就職ガイダンスが始まったことを受けて就職部の講座・模擬試験などについて解説し、目標を設定した学習計画の作成を指導する。
13	学習方法の計画②	Ⅱ期以降の学習方法を考え、各自の学習プランを作成し提出する。また、目的に応じて学生が協力して運営する勉強会の結成などを検討する。
14	確認テスト	授業を総括した実力確認テストの実施。
15	まとめ	就職部企画のSPI試験を全員が受験する。前回提出された学習プランを返却し、2年間の計画的で継続的な学習を頑張れるように支援する。

平成30年度

科目名	博物館概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	会田 容弘		
開講期	I		
授業概要	博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に文化学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。		
達成目標	<到達目標>博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。博物館利用者として、十分な知識を持つこと。		
受講資格	地域創成学科学生。	成績評価 方法	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。
教科書	博物館概論		
参考書	地域資料館の挑戦		
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。重要な質問がある場合は事前にメールでアポをとってから面会に来ること。		
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の教科書・参考文献を読んでおくこと。(1時間) 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は文化学科選択専門科目であると同時に、資格課程の学芸員補の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則にのっとり、説明を行う。
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の位置づけを説明する。
3	2：続・博物館とは何か	博物館の機能について、博物館法をもとに説明する。
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。
5	4：博物館学芸員の役割(1)	博物館法、それぞれの博物館条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。
6	5：博物館学芸員の役割(2)	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通じた仕事内容を説明する。
7	6：博物館の歴史(1)	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。
8	7：博物館の歴史(2)	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。
9	8：博物館の歴史(3)	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。
13	12：博物館の現状と課題(1)	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。
14	13：博物館の現状と課題(2)	これからの博物館について、望ましい姿を模索する。
15	14：博物館の危機管理	3・11東日本大震災で博物館は多くの被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。

科目名	色彩学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	I		
授業概要	【授業の目的・ねらい】 色彩の基礎を総合的に学びます。物理的側面と心理的、生理的側面から概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。 【授業の概要】 色が見えるとはどういうことなのか。色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材の混色や、配色カードを用いた演習課題に取り組みとともに、色覚弱者についても学びます。		
達成目標	色彩に関する検定試験3級程度の知識を身につけることを目標とします。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価しますが、講義内容の7割程度の理解を期待します。
教科書	各單元ごとに資料を配布します。		
参考書	色彩学概説(千々岩英彰著:東京大学出版)、カラーマスターベーシック(NPO法人アデック出版局) 他		
学生への要望	日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。		
オフィスタイム	平日8:30~17:00 (No.1生芸研究室)		
自学自習	①事前学習 授業内容をシラバスで確認すること(30分) ②事後学習 授業で取り組んだことを踏まえて、配布資料などを参考にノートにまとめること(1時間以上)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 授業の目的と進行について説明する。 2. 色を見るとはということか、色の役割などについて考える。
2	講義:色のなりたち (1)	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色 4. 色を見るための光源
3	講義:色のなりたち (2)	5. 色の分類 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題
4	講義:混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色 5. 色材の混色 ※確認問題
5	講義:色の表示方法	1. 表示方法の分類 2. 色名による表示 3. PCCS(日本色研配色体系) 4. マンセルシステム
6	演習:課題1・課題2	【課題1】 新配色カード199aを使ってPCCS色相環の12色相を作成する 【課題2】 色材の混色と着色(1) ※コンパス、直定規、不透明絵の具(アクリル絵の具)を使用 ①正三角形を二つ作図し、頂点箇所はY(イエロー)、M(マゼンタ)、C(シアン)の単色を塗る。 ②一つの中心部は白、もう一つの中心部は黒で、その他は混合比の数字により混色して色を作る。
7	演習:課題2(つづき)	③混色の技術と、2色による混色、3色による混色、明清色、暗清色を理解する。
8	演習:課題3	【課題3】 色材の混色と着色(2) ※直定規、不透明絵の具(アクリル絵の具)を使用 正三角形の混色とは別に、黒と白で混色し帯状のグラデーションをつくる。
9	講義:色の心理効果	1. 色の感情効果 2. 色のイメージ(心象) 3. 色の意味的作用/連想 ※確認問題
10	講義:色彩調和 (1)	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色
11	講義:色彩調和 (2)	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ ※確認問題
12	演習:課題4	【課題4】 PCCS色相とトーン 新配色カード199aを切り取ってPCCS色相・トーン一覧表に貼り付け完成させる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	講義：環境と色彩	1. 色彩が及ぼす働き 2. 色彩と生活環境 3. 色彩とファッションコーディネート 4. 色彩とインテリアコーディネート ※確認問題
14	講義：色のユニバーサルデザイン	1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例
15	まとめ	1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について

科目名	情報処理Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	Ⅱ		
授業概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. Microsoft Office Specialist Word2016スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける 2. Word2016の応用的な利用方法を身につける 3. Word2016において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜2・4限 家政学館4階 情報処理教育研究室		
自学自習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習／復習の徹底（1時間） ・模擬試験の反復練習（1時間） 		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。
2	文書の作成と管理（1）	テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査
3	文書の作成と管理（2）	2回目と同じ。（テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査）
4	文字、段落、セクションの書式設定（1）	置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り
5	文字、段落、セクションの書式設定（2）	4回目と同じ。（置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り）
6	表やリストの作成（1）	表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更
7	表やリストの作成（2）	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）
8	参考資料の作成と管理	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙
9	参考資料の作成と管理	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（1）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（2）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）
12	模擬試験（1）	模擬試験の実施と解説。
13	模擬試験（2）	模擬試験の実施と解説。
14	模擬試験（3）	模擬試験の実施と解説。
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Word2016スペシャリストレベル 受験計画

科目名	情報概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	古山 幹雄		
開講期	Ⅱ		
授業概要	コンピュータや情報通信技術の基本原理を学び、実際のハードウェア構成、ソフトウェアの種類や機能を理解すると共にコンピュータをネットワークで接続したインターネットの日常生活やビジネスでの活用とそれを支える基本技術について学ぶ。さらに、ネット社会が抱える問題とその解決法について考える。また、今後、学習していく情報関連の授業が理解できるようにする。		
達成目標	1. 情報処理の基本である情報の単位が説明でき、2進16進の計算ができること。 2. パソコンの動作の仕組みが説明できること。 3. ネットワークの仕組みを理解すること。		
受講資格	なし	成績評価 方法	e-learningの学習成果：30点 ペーパー試験：70点の100点満点で60点以上で合格。
教科書	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版		
参考書	パソコン検定3級試験対策全般		
学生への要望	馴染みの無い言葉が沢山出てくるが、教科書をよく読み分らない言葉はインターネットで調べる等して学習する習慣をつけてください。		
オフィスタイム	非常勤講師控え室 木曜日：12:30～12:50 IV限授業終了後		
自学自習	事前学習：各回の該当箇所をテキストで学習すること。（目安1時間） 事後学習：e-learningの各stepの確認テストが80点以上になるまで繰り返し学習する。（目安2時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	講義内容を説明する。コンピュータ上で扱う情報について表現方法や演算の方法について学ぶ。 用語：2進法、16進法、文字コード
2	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史やコンピュータの種類、パソコンの形や取扱いの注意について学ぶ。 用語：ノイマン型コンピュータ、PS/AT互換機、ハードウェア、ソフトウェア
3	ハードウェア 1	パソコン本体の内部がどのような部品で構成されているか確認し、それぞれの役割や性能について学習する。 用語：CPU、メインメモリー、RAM/ROM
4	ハードウェア 2	外部記憶装置および代表的な出力装置の動作原理や種類、性能の見方について学ぶ。 用語：ハードディスク、リムーバブルディスク、CRT、液晶、ラスタデータとベクタデータ
5	ハードウェア 3	入力装置の種類とその動作原理について学ぶ。また、周辺装置を接続するインターフェースについて学ぶ。 用語：キーボード、マウス、スキャナー、シリアル転送、パラレル転送、IEEE1394、USB
6	基本ソフトウェア	OSの役割と種類を学習し、現在の主流となっているWindowsの特徴について学ぶ。 用語：ディスク管理、レジストリ、ファイルシステム、拡張子、
7	アプリケーションソフトウェア	オフィス処理関係ソフトの種類と機能を学習するほかにデータベースソフトやプログラミングについて学ぶ。 用語：テキストエディタ、DTPソフト、テーブル、レコード、フィールド、SQL、プログラミング
8	情報通信ネットワークの仕組み	コンピュータネットワークの代表的な形態について学び、それぞれの違いについて確認する。 用語：LAN、WAN、OSI、クライアント、サーバー
9	LANの構成	LANの規格、データ転送方式、LANのハードウェア、セキュリティについて学ぶ。 用語：イーサネット、無線LAN、ハブ、ルータ、ファイアウォール、暗号化
10	インターネットの仕組み	インターネットとは何かについて、歴史、しくみ、代表的サービスであるWWWの観点から学ぶ。 用語：ARPAnet、IPアドレス、ドメイン名、ISP
11	インターネット上のサービス	メールがどのようにして届くか学び正しく利用できる知識を得るとともにインターネット上の色々なサービスについて学ぶ。また、インターネットへの接続方法について説明できるようにする。用語：POP、SMTP、メールリングリスト、ADSL、FTTH
12	情報セキュリティ	セキュリティに関する正しい知識を持ち、適切な対策を講じることができるよう学習する。 用語：コンピュータウィルス、ウィルス感染の予防、スパイウェア
13	不正アクセス	不正アクセスとは何か及びそれを禁止している法律について学ぶとともに不正アクセスを防ぐ技術対策を理解し実施できるようにする。用語：不正アクセス禁止法、セキュリティホール、ファイアウォール
14	不正アクセスと詐欺の防止	最も利用機会の多いブラウザのセキュリティ機能を有効に使用するため、設定方法を学び利用形態に合わせた設定ができるようにする。用語：インターネットオプション、Cookie、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺
15	情報モラル レポート課題	情報社会の問題点と法律、自分を守るための方法について学ぶ。 用語：知的財産権、個人情報、インターネット利用上のマナー

科目名	情報倫理	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 必修
担当教員	古山 幹雄		
開講期	Ⅲ		
授業概要	倫理は安定した社会を築くための基盤であり、その現代社会は情報化が進展している。本講義では情報を扱う場合にどのような倫理観が必要となるのか、またどのようにすれば安全の確保ができるのかについて学び、実社会に出た時にネット上で人に迷惑をかけないまた犯罪に巻き込まれないような知識を身につける。		
達成目標	「目標」 ネット社会の基本的仕組みを知り、色々なリスクの回避やリスクへの対応を出来る様にする。		
受講資格	福祉情報2年	成績評価 方法	レポート1回：10点、e-learningの学習成果：20点 (特別テスト2回の結果も含む)、ペーパー試験： 70点の合計100点満点で60点以上で合格。
教科書	教科書は指定しない。 授業時プリント配布		
参考書	<情報概論の教科書> 「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版		
学生への要望	日頃からハイテク犯罪や倫理の問題を意識して、ニュース等を見聞き、関心を持つこと。		
オフィスタイム	非常勤講師控室 月曜日：(10：:10～10:30、12：00～12:50) 水曜日：(12：00～12：:20)		
自学自習	予習：日頃からセキュリティに関する事件を調べておく。また、情報概論の教科書で各回のテーマに添った箇所を復習しておく。(約1時間) 復習：e-learningを実施する。(約1時間/テーマ)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義の目的や進め方、評価方法について述べる。また、「情報倫理」とは何かについて概要を理解する。e-Learningの活用について説明する。
2	ネットワーク社会	ネットワーク社会に参加するにあたって、最も基本的な心構えや注意事項を学ぶ。これにより、被害にあわない、他に迷惑をかけないためのポイントを理解する。<キーワード> 情報、倫理、サイバー犯罪
3	ネットワークとインターネット	ネットワークやインターネットの基本的な仕組みとインターネットで提供されているさまざまなサービスについて学ぶ。<キーワード> ネットワーク、インターネット、ネットワーク社会、ネット上のエチケット、インターネットの代表的サービス
4	ユーザ認証とアカウント	アカウントの大切さや、より安全なパスワードの設定方法などを学ぶ。これにより、実際にパスワード設定する場でクラックされにくい文字列で設定できるようにする。<キーワード> アカウント、パスワード、ユーザID、クラッカー
5	情報受発信と情報検索 ①	メールを使った悪質ないたづらや犯罪も増加傾向にある。自らがメールのマーを身につけるとともに、自己防衛のための知識を学ぶ。 <キーワード> メール、チェインメール、メーリングリスト、電子掲示板、チャット パスワードチェッカー URL https://www.microsoft.com/ja-jp/security/pc-security/password-checker.aspx?wt.mc_id=site_link
6	情報受発信と情報検索 ②	悪質なサイトや有害な情報も混在しており、それに対応したWebページを見る側の知識や心構えを学ぶ。また、携帯電話での心構えや知識も学ぶ。<キーワード> 検索エンジン、WEBページの作成、ブログ、WIKI
7	ネットワークセキュリティ	ネットワーク利用者の一人ひとりが身に着ける必要があるネットワークセキュリティについての正確な知識を学ぶ。<キーワード> ネットワークセキュリティ、コンピュータウイルス、不正アクセス、DOS攻撃、踏み台、ボットネット
8	情報の流出とサイバー犯罪 レポート1	個人情報も含めた機密情報の流出は、流出時点で被害は甚大である。サイバー犯罪の防止のビデオを上映し、具体的にサイバー犯罪の危険性、防止策について学ぶ。<キーワード> コンピュータウイルスと情報流出、スパイウェア、ファイル交換、記憶装置の紛失 レポート課題：最近のサイバー犯罪について
9	ネットワーク社会と生活 ①	インターネットの普及で、様々な機関がインターネットを通じてサービスを開始した。そのため社会生活も大きく変化している。社会の変化とネットサービスについて学ぶ。<キーワード> ISP、電子商取引、BtoB、BtoC、GtoC
10	ネットワーク社会と生活 ②	この項目に関するケーススタディーをする。ケーススタディーを通して、問題の所在、原因、対応策、再発防止のための対策を理解し、認識する。<キーワード> インターネットショッピング、トレーディング、バンキング、オークション
11	ネットワーク社会の問題とトラブル	ネットワーク利用の際の影の部分を中心に学ぶ。ネットワークを利用することは非常に便利な面があるが、一方では、不備、脆弱面も多々ある事を理解する。<キーワード> メディアリテラシー、情報の信頼性サイバーテロ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	ネットワーク社会の問題とトラブル②	犯罪や被害事例を学び、自分を守る術を身につける。ネットワークの犯罪は、本人が全く認識しないまま巻き込まれることがあるが、知識の有無でかなりリスクが異なる事を理解する。 <キーワード>ネットワーク犯罪の傾向、スパムメール、マルチ商法、秘ミ講、オークション詐欺、不正請求
13	ネットワーク社会を取り巻く法律①（全般、個人情報保護法）	個人生活の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を全般的に学ぶ。生活の中で密接に関連して来る個人情報保護法について詳しく学ぶ。 (個人情報保護法、児童買春防止法、訪問販売法)
14	ネットワーク社会を取り巻く法律②（著作権法）	ビジネス社会や日常生活において密接に関係する著作権法について、最近の法律改正事項も含め学習する。授業の中では、政府が作成したビデオを活用する。
15	ネットワーク社会を取り巻く法律③（その他のサイバー法）	社会活動の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を学ぶ。法律の改正とネットワーク社会の発展の関係について学び、仕事の中で生かせる知識を得る。 (不正アクセス禁止法、電子署名法、プロバイダ法、)

科目名	情報メディア論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択
担当教員	山口 猛		
開講期	Ⅲ		
授業概要	高度情報化社会といわれる21世紀、我々は情報を得ることなくしてよき生活を営むことは考えられない。その情報を伝えるメディアは人間のあらゆる社会的な生活にとって、また人間らしい生活を営む上で必要不可欠なツールとなっている。メディアの歴史と現状を見つめ、充実した社会生活を営むためのメディアの利用方法を身につける。		
達成目標	1. 日常生活でメディアを活用する力を身につけること 2. 情報の受け方・利用の仕方を理解すること 3. 各種メディアの特性を理解すること		
受講資格	特になし	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは、授業態度・課題・レポートにより評価する。 授業態度20%、実習課題30%、レポート50%とする。
教科書	担当教員作成のプリント		
参考書	なし		
学生への要望	テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで毎日必ずニュースに触れること。随時、社会の出来事に関する感想・意見を求めるので積極的に発言すること。		
オフィスタイム	月曜日2・4限、家政学館4階情報処理教育研究室口		
自学自習	事前学習：1週間の時事についてさまざまなメディアを通して情報を収集し、メディア特性を理解するよう努める（1時間） 事後学習：授業で学んだ内容を振り返り、ノート整理を行うこと（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス メディアの歴史	メディアとは何か、生活情報の入手手段としてのメディアはいかに変遷してきたか、日本におけるメディアの歴史と展開を見る。またマスメディアの現状と日常生活との結びつきを考える。
2	マスメディアの理解 -新聞- (1)	最も古いマスメディアである新聞の歴史と、情報提供者として果たしてきた役割を見る。また新聞の紙面構成とニュース記事のスタイル、読み方などを実際の新聞を使って説明する。
3	マスメディアの理解 -新聞- (2)	地元新聞社の担当者をゲストに迎え、新しい時代の新聞、読者の新聞への期待と新聞社の対応について理解する
4	マスメディアの理解 -テレビ- (1)	日常生活の情報入手源として最も身近なテレビ・ラジオの現状とシステム、重要な社会情報としてのニュース及びニュース番組の制作プロセスを解説する。また視聴者の放送メディア利用スタイルを見つめ、デジタル時代の利用法について考える。
5	マスメディアの理解 -テレビ- (2)	県内のテレビ局を訪れ、テレビ番組の制作から放送までのシステムを学ぶとともに、情報の送り手（アナウンサー、ディレクター、記者）との懇談を通して、情報の受け方、利用の仕方を学ぶ。
6	デジタルネイティブ世代の ニューメディア (1)	デジタルネイティブ世代（生まれた時からインターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきた世代）が馴染みのある従来のマスメディアに問われないニューメディアの理解を目的に、歴史と特徴を説明する。
7	デジタルネイティブ世代の ニューメディア (2)	ソーシャルメディアの情報発信手段として重要視されているYoutube等のインターネット動画配信について学び、従来のマスメディアとの比較を行い、メディアが持つ目的や役割の違いを理解する。
8	ソーシャルメディアの理解	容易に情報の受け手（情報メディアから情報を得ていた立場）から情報の送り手（LINE、Twitter、facebook等で自ら情報を作成する立場）になれるソーシャルメディアの特性の理解を目的に、共通テーマで記事を作成する実習を行う。
9	新しい情報メディアの理解 (AR・VR)	技術の進歩により、新たな情報表示の方法が普及しつつある。現実の空間に情報を重ね合わせて表示する技術であるAugmented Reality (AR) と、仮想の世界を体験できる技術であるVirtual Reality (VR) の特徴や可能性を理解する。
10	メディアの作成 (1)	従来のメディアと、新しいメディアを融合させた作品を制作する。具体的には、ある共通テーマを設定したオリジナルチラシ（紙媒体）を作成するグループワークを行う。紙媒体のチラシに、「ソーシャルメディアのリンク」「AR機能」を付加し、従来のメディアであるチラシにはない情報発信の可能性を知る。
11	メディアの作成 (2)	第10回の作業を継続し、作品を完成させる。
12	メディアの作成 (3)	第11回の作業を継続し、作品を完成させる。
13	メディアの評価	第12回で作成したチラシのプレゼンテーションを行う。チラシを手にした相手にどの程度、正確に情報伝達が達成できたか、魅力アピールできたかなど、作成したメディアが果たした能力を評価する。
14	情報メディアの将来	メディアは、インターネットの普及と情報媒体の高性能化により、今後も進化が進んでいくと予想される。現時点で近い将来に世に出てくるであろう情報メディアをまとめたビデオ教材の視聴と解説により、情報メディアへの柔軟な理解を行う。
15	総合まとめ	課題レポート「日常生活にメディアをどう活かすか」を作成。授業の感想と質疑応答

科目名	地域社会と食文化	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	阿部 優子		
開講期	I		
授業概要	福島県の地域的特性である会津地方、中通地方、浜通り地方の3地域の食文化について理解するとともに、地域に根差した伝統料理について実習を交えながら理解を深める。また「地域社会」と「食」の取組みについて事例調査を通して、食文化を次世代に伝え継ぐための方法を考える。		
達成目標	①福島県内の文化について理解する。 ②地域社会における食への取組みについて理解を深める。 ③「地域社会と食文化」としてプレゼンテーション発表会を実施する。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	課題の取組み30点、授業態度30点、プレゼンテーション発表内容40点の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	特になし。授業内容について資料を配布する。		
参考書	必要に応じて連絡する		
学生への要望	グループでの学習が主となるため、無断で欠席しないこと。 調理実習時は、注意事項をよく守り、衛生的な配慮と安全に心がけること。		
オフィスタイム	月曜日のⅣ限(14:30~16:00)、木曜日のⅢ限(12:50~14:20) 研究室：家政学館1階「No.2調理学研究室」		
自学自習	事前学習：シラバスをもとに、当日の内容について確認する(30分) 事後学習：授業を振り返り、配布資料の確認をする(30分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	地域社会と食文化ガイダンス	地域社会と食文化の授業目的について理解を深めるとともに、班構成を行い、グループ学習に備える。また今後のスケジュール確認等を行う。
2	福島県の地域的特性について	福島県の地域的特性について知り、県内を縦貫する2つの山脈によって分けられる「会津地方」「中通地方」「浜通り地方」の3つの地域それぞれの特徴について理解する。
3	福島県の食文化の特徴について	前回の授業で学んだ地域的特性から発祥し、今日まで伝承されている食文化の特徴について理解するとともに、地域社会での取組みについて考える。
4	各地域における「食」への取組みについて(1)	各グループ毎に担当地域を決定し、その地域で伝承されてきている料理について調べるとともに、地域社会との関わり方についての事例について調査する。
5	各地域における「食」への取組みについて(2)	前回調査した「地域社会」と「食」の関わり方についての事例を参考に、グループ内で地域社会と食を繋げる新しい連携方法について考える。
6	調理の基本 計器と計量	生活に必要な基本となる正しい計量について、台秤、電子秤、計量カップ、スプーン等を使用して、調味料や食品の概量を理解する。これらをもとに、10、11回の調理実習に備える。 《参考》DVD：「包丁の使い方」
7	福島県の郷土料理について	既習の福島県内の郷土料理より代表的な料理を取り上げ、材料や調理方法について理解し、次回からの調理実習に備える。
8	福島県の郷土料理(1)	7回目の授業で学んだ内容をもとに、実習を行う 会津地方の料理 《実習名》こつゆ 他
9	福島県の郷土料理(2)	7回目の授業で学んだ内容をもとに、実習を行う 中通地方の料理 《実習名》凍み餅料理 他
10	福島県の郷土料理(3)	7回目の授業で学んだ内容をもとに、実習を行う 浜通り地方の料理 《実習名》さんまのぼうぼう焼き 他
11	新しい食文化について	本学の所在地である「郡山市」における、新しい食文化への取組みについて理解し、次世代に伝え継ぐための方法について考える。
12	地域社会と食文化につて	これまでに学んだ内容をふまえ、グループの担当地域について「地域社会と食文化」としてプレゼンテーション発表会を実施する。これまでに調査した内容についてまとめるとともに、追加の調査を重ねながら、発表会へ向けて準備を進める。
13	プレゼンテーション準備(1)	各グループごとに発表会の準備を行う。
14	プレゼンテーション準備(2)	前回到続き、グループごとに発表会の準備を進めるとともに、発表前の最終確認を行う。
15	「地域社会と食文化」プレゼンテーション発表会	各グループで調査した内容をパワーポイントを使用して発表を行う。各グループの発表内容と感想をまとめてレポートにして提出する。 《課題》発表の概要と感想のレポート

科目名	衣生活文化論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	田辺 真弓		
開講期	Ⅱ		
授業概要	衣服は人がそれを装うときに成り立つものであり、衣服の主人公は人間である。衣服にはいろいろな時代背景や社会状況の中で、人間の様々な心情が託されてきた。本講義では、衣服を人間の存在と結び付けて長い間に培われてきた文化のひとつとして捉え、衣服が着る人の心とどのようにかかわっているかを考える。衣服の機能、衣服への感情移入、衣服の流行、制度と慣習、日本と西洋との色彩感情の違い等に注目する。さらに服飾研究の進め方について例を挙げて解説し、服飾研究に対する関心を高める。		
達成目標	衣生活を文化的面から見る姿勢を養うとともに、服飾研究について関心を持つこと。課題3回に意欲的に取り組み、期末レポートについては、研究課題を自ら設定して資料を収集し、論述を進めて完成させること。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	①課題3回 30点 ②期末筆記試験 70点 60点以上で合格点とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	教科書は用いず、資料を配布する。		
参考書	増田美子 編 『日本衣服史』 吉川弘文館、小池三枝 著 『服飾文化論』 光生館、小池三枝 著 『服飾の表情』 勁草書房、徳井淑子 著 『服飾の中世』 勁草書房、徳井淑子 著 『ヨーロッパ服飾史』 河出書房新社、その他、授業で紹介する。		
学生への要望	衣生活文化に関心をもつとともに、授業で紹介した参考文献にはできるだけ目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
オフィスタイム	教務部非常勤講師控室 金曜日Ⅱ時限		
自学自習	事前学習:「シラバス」の授業内容とスケジュール表に基づき、授業で取り上げる内容について、参考図書、服飾事典等で調べる。(1時間) 事後学習:授業で学んだ内容についてノートにまとめ、疑問点等について調べるとともに、次回の授業において質問できるように、質問項目をまとめる。併せて、学期半ば以降は、期末筆記試験に備えて、復習に取り組む。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業計画の提示 日本風俗美術館服飾解説	授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。図書館1階の日本風俗美術館に展示されている風俗人形の服飾、ならびに時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。
2	衣服の機能 表現と感情移入	衣服が持つ機能には、「身体保護」、「羞恥心の覆い」、「呪術性」、「表示」、「美的要求」、「変身願望」、「携帯機能」などがある。これらの機能について知り、なぜ衣服を着るのかについて考える。衣服の持つ自己表現には「目立ちたい」と「目立ちたくない」という相反する意識がある。また、衣服はそれを着る人物を表す「記号」の役割と、着る人の内面を語る「ことば」の役割をする。衣服は着る人のところに働きかけて新たな「表現」を生じさせるものである。
3	着心地	着心地には物理的な着心地と、心理的な着心地とがある。ここでは衣服を着るときの心の状態を通して、個人・集団・文化のレベルで着心地について知り、衣服が着る人の心にどのように働きかけているかを考える。
4	衣服と流行	流行は少数者に始まって多数者に及ぶ好尚の現象であり、おそらく人間の文化とともに古くから現れた現象だと思われる。流行の成立と交替、個性の無視と誇張、流行の起点などについて、西洋や日本の服飾の流行を通して考え、流行の構造とその意義を明らかにする。
5	衣服の美感	日本の近世の美感である「だて」と「いき」とはどのようなことを表し、服飾の上にどのように現れているのかを絵画資料、図版資料、文献等を通して知る。また、あわせて西洋の美感である「ダンディズム」について、それが服飾上にどのように現れ、その後の紳士服に及ぼした影響を知るとともに、その精神主義について理解する。
6	衣服と色彩(1)	ファッションプライム第4集「色彩」を視聴し、色彩に対する感情、古代から用いられてきた天然染料と近代になってから生産されるようになった合成染料、さらに、染色技法についての知識を得る。
7	衣服と色彩(2)	日本の律令制における服制と色彩について知り、さらに、平安時代の襲色目が季節と密接に結び付いていることを学ぶ。それに反して、西洋の色彩は季節感とほとんど結び付いてこなかったことを知り、日本と西洋との色彩感覚が大きく異なっていることを理解する。
8	流行と衣服	衣服の流行はどのように発生して広がり、交代していくか、また、それに付随してどのような現象が現れるか、また、それはどのような意味をもっているかについて、文献および絵画等の資料を参照しながら学ぶ。
9	アパレルファッションビジネスと商品企画	『アパレル—企画から販売まで—』を視聴し、現代のアパレル産業の商品企画、設計、サンプル作成、展示会、生産販売会議、工業用パターン作成、グレーディング、マーキング、延反、裁断、バンドリング、縫製、仕上げ、検査、販売等の実際を理解する。
10	被服材料の種類とその歴史	ファッションプライム第3集「素材」を視聴し、世界各地で取材した貴重な映像を通して天然繊維の種類と特徴、その歴史を知り、被服材料についての知識を深める。さらに、化学繊維が開発された経緯と、その後、その機能が目覚ましく発展し、現在では様々な分野で用いられていることを知る。
11	「延喜式」織部司	大蔵省の管轄下に設けられていた織部司は天皇・皇后の御衣の材料となる織物を生産していたことで知られている。当時の織物技術と生産、さらに七夕の行事である乞巧奠について文献を手がかりに学ぶ。
12	「近世小袖」と町人服飾	近世小袖文様の流行と町人文化が開花した元禄期の町人服飾について、雛形本、絵画資料、文学作品等を基に学び、服飾と当時の人々の生活との関わりを知る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	文明開化とファッション	明治維新後の文明開化期は服飾にも大きな変化をもたらした。日本において洋服がどのように用いられるようになっていったかを絵画や写真資料ならびに文献等を基に年代を追って見ていき、当時の人々が衣服についてどのような思いをもち、どのような衣生活をしていたのかを知る。
14	赤毛布と洋風の外套	近世まで日本の衣生活の中に外套は存在しなかったが、西洋から洋服とともに羊毛織物がもたらされると、はおりものとして「肩掛」や「赤毛布」が流行した。また、男性の「二重廻し」、女性の「東コート」が誕生し、和服に組み合わせられて日本の衣生活に急速に浸透していった。
15	日本の伝統的な無駄のない衣生活	日本のきものは直線裁ちで、平面的に縫製されていたことから、季節ごとにきものをほどいて繰り直し、縫い直すことが日常的に行われてきた。そのため、衣料を最後まで、即ち「ぼろ」になるまで使い切るという衣生活が実践されてきた。衣更えとそれに伴う無駄のない衣生活について、文学作品や図版資料を基に考える。

平成30年度

科目名	ビジネスマナー	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	知野 愛, 阿部 優子, 山口 猛		
開講期	II		
授業概要	将来社会で活躍する人としてなるためにコミュニケーション能力を磨き、ビジネスマナーを身に着けることを目標として、実践的に学ぶ。		
達成目標	【達成目標】将来社会で活躍する人としてなるためにコミュニケーション能力を磨き、ビジネスマナーを身に着けることを目的とする。 【達成課題】授業で学修した内容概要を、各自がパワーポイントを使用してまとめ、全員がプレゼンテーションする。		
受講資格	地域創成学科 1 年生	成績評価 方法	①テーマごとのレポート50点、②受講態度30点、③最終発表20点
教科書	随時資料を配布		
参考書	随時提示する		
学生への要望	積極的な姿勢で授業に臨むこと		
オフィスタイム	火曜V限、木曜IV限		
自学自習	事前学習:シラバスをよく読み、次回内容の関連文献を読んでおく。(1時間) 事後学習:授業内容を踏まえて、課題レポートを作成し指定日までに提出する。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス (知野、山口、阿部)	授業の進め方をシラバスに基づき説明。
2	夢への地図 (山口)	自己形成に向けてマインドマップを作成する。
3	マインドマップを実現するために何をするか (山口)	第1回で作成したマインドマップを実現するため何をすればよいのかグループディスカッションする。
4	対人関係の築き方 (齋藤美先生)	初対面の人への自己紹介の仕方、わかりやすい話し方というものを学びます。
5	就職活動対策①本学の求人状況・求人票の見方 (就職委員山口)	本学の履歴書記入上の注意、求人票の見方、応募書類の送付状の書き方を学び実際に作成する。
6	就職活動対策②履歴書の書き方・求人票の見方 (知野)	本学の履歴書記入上の注意、求人票の見方、応募書類の送付状の書き方を学び実際に作成する。
7	就職活動対策③試験対策 (知野)	就職試験対策として、SPI試験やその他の検査用紙を実際に解いてみることを繰り返し、実践的に学ぶ。
8	就職活動対策④面接対策 (知野)	面接の受け方、長所短所や趣味・興味のある事項について説明できるように準備し、模擬面接を受け実践的に学ぶ。
9	就職活動対策④就職試験実践編 (阿部)	SPI問題、その他就職試験過去問題に挑戦してみる。
10	就職後のビジネスマナー①来客対応と接遇のマナー (阿部)	来客時の対応、接遇のマナーとして、案内先導の仕方や取次ぎ方法、名刺交換やお茶の出し方等を学ぶ
11	就職後のビジネスマナー②冠婚葬祭のマナー (阿部)	社会人として身に着けておくべき冠婚葬祭に際しての様々なマナーを学ぶ。
12	就職後のビジネスマナー③職場における人間関係 (知野)	職場での人間関係上の悩み、ハラスメントなどに遭遇した際の対処方法について学ぶ。
13	就職後のビジネスマナー④ビジネス文書の書き方 (山口)	ビジネス文書の書き方など社内連絡に関わるマナーをパソコンで作成し実践的に学ぶ
14	まとめ・振り返り (知野、山口、阿部)	15回の授業を振り返り、学んだ内容をまとめプレゼンテーション資料をパワーポイントで作成し、発表の準備をする。
15	成果発表 (知野、山口、阿部)	15回の授業を振り返り、学んだ内容をまとめプレゼンテーション資料をパワーポイントで作成したものを全員の前で発表する。

平成30年度

科目名	ビジネスホスピタリティ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	知野 愛, 田辺 真弓		
開講期	II		
授業概要	「ビジネス・ホスピタリティ」の授業では、就職活動や社会人となってから役に立つように、ビジネス面を意識したホスピタリティの精神の重要性や実践例を具体的に学ぶ。(演習2単位)		
達成目標	授業の目標は、地域創成に関わる際に、どのような職業に就いても様々な場面においてホスピタリティの精神は重要となる。ホスピタリティの理念、実践例を学ぶことを目標とする。達成目標は、授業で学んだ内容を最終的に振り返り、レポートにまとめて提出し発表する。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①各テーマのレポート60点、②最終レポート40点
教科書	指定しない		
参考書	必要に応じて提示する		
学生への要望	その回のキーワードを自主的に調べるなど、自発的に学ぶこと。		
オフィスタイム	月曜IV限、金曜IV限、場所：家政学館4階福祉情報専攻研究室		
自学自習	事前学習:シラバスをよく読み、キーワードを調べておくこと(1時間)、事後学習:授業内容を踏まえて、レポートを作成し次回までに提出する(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス、ホスピタリティを学ぶ意義	授業の進め方、今後の予定をシラバスに基づいて確認する。「ホスピタリティ」が必要とされている理由等について学ぶ。
2	衣服とホスピタリティ	社会人として知っておくべき冠婚葬祭時の服装やマナー、衣服とホスピタリティについて学ぶ。
3	第一印象の重要性	第一印象の重要性、社会人として意識すべき身だしなみ、髪型や表情による印象の違いなどを学ぶ。(資生堂ジャパン東北支社福島オフィス)
4	身だしなみとしてのメイクアップ	身だしなみの一つとして基礎的なメイクアップの方法を実践的に学び化粧の精神的効用、周囲の人々への印象なども学ぶ。(同上)
5	社会人としての心構え	社会人としての心構え、敬語と言葉遣いの基本、クッション言葉、職場での態度、心得ておくべき点を具体的に学ぶ。
6	パフォーマンス技術を磨く	自己表現の重要性。自分の思いをいかに相手に伝えるか、様々な年齢の人々とコミュニケーションをとれるようになる。
7	電話対応の仕方	電話のかけ方・受け方の基本、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への対応等を実践的に学ぶ
8	ビジネスシーンでの様々な留意事項	郡山市内の企業・商店での様々な事例、最近の傾向、ビジネスシーンで見かける避けるべき態度や話し方、留意点を具体的に学ぶ。
9	ホテルでのホスピタリティおもてなしの心	ホテルでの「おもてなしの心」の実践、心掛けていること、様々な事例等について、ホテルの女将からお話を伺う。(ホテル華の湯社長室室長)
10	ホテルでのホスピタリティ実践例	ホテルでの「おもてなしの心」の実践、心掛けていること、様々な事例等について、ホテルの女将からお話を伺う。(同上)
11	この地域におけるホスピタリティの実践例(1)	私達の住むこの地域で、どのようなホスピタリティの実践が行われているだろうか、実践例を具体的に知る。(その1)
12	この地域におけるホスピタリティの実践例(2)	私達の住むこの地域で、どのようなホスピタリティの実践が行われているだろうか、実践例を具体的に知る。(その2)
13	全国的に実施されているホスピタリティの実践例(1)	ホスピタリティの重要性は広く認知されるようになり、全国各地での実践例が報告されている。それについて学び今後のあり方を考える。
14	全国的に実施されているホスピタリティの実践例(2)	ホスピタリティの重要性は広く認知されるようになり、全国各地での実践例が報告されている。それについて学び今後のあり方を考える。
15	レポート作成、発表	授業で学んだ内容について各自が作成したレポートを提出、発表する。

科目名	ボランティア活動		
担当教員	山口 猛, 福島 寅太郎, 浅野 章, 斉藤 弘久, 桑野 聡, 会田 容弘, 知野 愛, 小松 太志, 松田 理香, 仲田 佐和子, 阿部 優子, 黒沼 令, 佐藤 愛未	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
開講期	I 期		
授業概要	講義においてはボランティア活動の意義やマナーについて学ぶとともに、ボランティア団体の実情を知り、理解を深める。実習では学科で推奨あるいは紹介するボランティア活動に全員で参加するものと、各自の希望でボランティア先を選択して参加の二通りの方法によって活動し、体験を通してボランティア精神を身につける。また活動の成果を発表する。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科主催ボランティア1回以上、自主参加ボランティアを2回以上実施する ・知らない人とのコミュニケーションを取り、協調性を意識した作業ができる ・ボランティア精神を理解し、自主的に行動する意識を持つ 		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	学科主催ボランティアを1回以上及び自主参加のボランティアを2回以上実施し、ボランティア実習報告を提出し、記述内容が適切であれば「認」とする。
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	色々なボランティア活動に参加し、ボランティア活動をする事に慣れてください。 情報処理士(領域3)必修科目のため、情報処理士ユニット選択の場合、必ず履修すること。		
オフィスタイム	コーディネート担当の山口が全体の質問を受け付ける。 月曜日 2・4限、家政学館4階情報処理教育研究室口		
自学自習	事前学習：参加するボランティア活動の情報収集を行い、自分の役割を理解し、最大限にボランティア活動で発揮できるための準備であることを心がける。(目安時間 1時間) 事後学習：実施したボランティア活動結果を活動ノートにまとめて振り返り反省し、ボランティア精神の理解を目指す。(目安時間 1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	4/11(水)Ⅱ※基礎学カトレ合同 ガイダンス・一般ボランティア活動の紹介	青少年向けボランティア事業とボランティアセミナーの紹介を通し、ボランティア活動を行う基礎を作る。 (国立磐梯青少年交流の家による講演)
2	4/24(火)Ⅰ※デッサンⅠ 休講 ボランティア計画方法	ボランティア活動の、授業内での管理方法や、ボランティアの参加計画を知る。
3	4/24(火)Ⅲ※油彩画Ⅰ 休講 ボランティア活動の現状	ボランティアの4ポイント、自発性、無償、公共性、先駆性の説明。ボランティアの歴史。震災後のボランティア活動の状況を理解する。(NPO法人ハートネットふくしまによる講演) ※福祉情報2年生ボランティア活動Ⅱ共同開催
4	5/4(水) 体験活動推進ボランティア 講習1日目	国立磐梯青少年交流の家で実施される、ボランティアセミナーの受講する。2泊3日。諸事情により当セミナー不参加の履修者は、代替のボランティア活動を合計2回実施する。
5	5/5(木) 体験活動推進ボランティア 講習2日目	国立磐梯青少年交流の家で実施される、ボランティアセミナーの受講する。2泊3日。諸事情により当セミナー不参加の履修者は、代替のボランティア活動を合計2回実施する。
6	5/6(金) 体験活動推進ボランティア 講習3日目	国立磐梯青少年交流の家で実施される、ボランティアセミナーの受講する。2泊3日。諸事情により当セミナー不参加の履修者は、代替のボランティア活動を合計2回実施する。
7	5/14(月)Ⅱ※博物館概論 休講 ボランティアの意義を考える グループワーク(作業)	ボランティア活動の意義の議論・まとめ・発表を行うグループワークを実施する。
8	5/21(月)Ⅱ※博物館概論 休講 ボランティアの意義を考える グループワーク(発表)	グループごとに発表を行い、ボランティア精神の共有を行い、授業全体のまとめを行う。
9	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施
10	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施
12	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施
13	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施
14	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施
15	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施

科目名	日本文化史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	I		
授業概要	日本社会の移り変わりに影響を受け、様々な発展を遂げた日本文化について近世を中心に検証を行う。社会と文化の関わりから、その特質・独自性を考えてみる。 授業テーマは、「江戸～明治時代の政治・社会と文化」である。徳川幕府成立から明治新政府の行った政策などとの関わりからどのように日本の文化が形成されていったのかを紹介する。		
達成目標	現代に通じる日本文化形成の理解を深め、日本史や現代社会における視野を広げる。		
受講資格	文化学科1年生	成績評価 方法	①課題レポート30点 ②期末試験70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	尾藤正英『日本文化の歴史』岩波新書、2000年 青木美智男『近世庶民文化史 日本文化の原型』小学館、2009年 ほか適宜指示する		
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No.4研究室		
自学自習	事前学修：提示されている参考書及び興味を持った事柄に関する文献などを読む。(1時間) 事後学修：授業内容の復習。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	南蛮文化の伝来と安土桃山文化	15世紀に始まった「大航海時代」の波は天文12年(1543)ポルトガル人の種子島上陸により、日本にも押し寄せた。渡来したポルトガル人・スペイン人えお南蛮人とよび彼らがもたらした南蛮文化と呼ばれる。その当時の日本文化とされる安土桃山文化との関わりを検討する。
2	寛永文化と「鎖国」	徳川家康は慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いに勝利し、同8年に征夷大将軍就任、江戸幕府を開いた。その頃の17世紀前半の文化を寛永文化とよぶ。サロンの文化と呼ばれ茶の湯や和歌が中心となった寛永文化と幕府の「鎖国」政策との関係を考える。
3	文治政治への転換と文化	江戸幕府4代目将軍家綱の治政の後半にあたる寛永期は武断政治から文治政治へと転換した時期である。この時期は文化の面でも同じく転換期とされており仏教・学問など様々な変容が見られる。そこから、文治政治と文化の関わりを検討する。
4	「浮世」の元禄文化と町人	17世紀末から18世紀のはじめにかけての元禄の頃は、上方を中心に都市がにぎわい、文化が栄えた時代である。そのため、元禄文化は「浮世」という言葉で代表され、独特の民衆文化が芽生え始めた時代とされている。一方で、身分制社会の文化としての特徴を持っていた文化でもある。この文化を理解するために時代背景と合わせて文化を考える。
5	松尾芭蕉と俳諧	元禄文化では武士階級出身の担い手も多く、『奥の細道』で知られる松尾芭蕉もその一人であり、俳諧で蕉風を確立させる。福島県内にも立ち寄りいくつかの俳句を残している。また、芭蕉の旅は地方の門人によって支えられていた。そこで、芭蕉が福島県での旅で出会った相楽等躬をはじめとする人々との関わりなどを検討する。
6	実学の発展と『会津農書』	元禄時代には諸産業の発達にともない、実学が発展する。実学とは、人々の日々の生活に実際に役立つ学問、実際の見聞にもつく学問のことである。それは、本草学・和算・医学・農学など様々である。農学では、会津藩の村役人である佐瀬与次右衛門が記した『会津農書』が著名である。そこで、生活を豊かにする実学を中心に当時の庶民の生活を考える。
7	宝暦・天明文化と洋学	宝暦・天明期になると学問世界にも新しい動きが現れてくる。その中でも、西洋学術の研究が本格的にはじまり、洋学が大いに発展することになった。なかでも、医学や天文暦学などが中心となり、研究が進められ多くの分野にわたり特異な能力を発揮する人々があらわれた。この時代に活躍した伊能忠敬や平賀源内などを通じて文化を考える。
8	亜欧堂田善と洋風画	須賀川で生まれた永田善吉(後の亜欧堂田善)は、白河藩主松平定信との出会いから、洋風画家の谷文晁や銅版画家の司馬江漢の弟子となり技術を学び、数々の作品を生み出した。江戸で活躍し、晩年に郷里へ戻った亜欧堂田善の生涯を検証していく。
9	町人の文化「化政文化」	江戸時代後期になると文化の中心が江戸に移っていく。この時期の文化は化政文化と称される。浮世絵や遠方の寺社や名所への旅も盛んに行われるようになった。「いき」と遊興から、当時の町人の生活を考える。
10	学問の発展と諸藩教育	江戸時代では、幕府・藩による学問の奨励や経済の変化により、武士・庶民を問わず教育が普及した。そこで諸藩には、主に藩士の子弟教育を行う機関として藩が運営した藩校が数多く誕生する。会津藩の「日新館」など福島のなかにも藩校を創設した藩がいくつかあった。そこで、福島にあった藩校教育から、藩の教育について探る。
11	伝統工芸品と諸藩	現在、「伝統工芸品」が全国各地で生産されているが、その中には美術工芸品として重要文化財・重要有形民俗文化財に登録されているものもみられる。この工芸品は江戸時代に藩の政策により奨励された例もいくつかある。このことについて工芸品と藩政策の関係を検討する。
12	洋学と留学生	開国後、欧米の国々との交流を行って、欧米の文化や学術を取り入れて近代化を目指そうとした。そのため、幕府及び諸藩は、文化・学術を学ぶために国内外へ留学生を派遣した。それらの留学がそのようなものだったのかを探る。
13	文明開化と「和魂洋才」	明治初期、欧米の文物・制度を取り入れ日本の近代化を図ることが国家目標になった。文明開化の風潮がひろまり、政府主導で積極的な西洋文化の導入が図られ急激な西洋化が図られたが、日本の伝統を見直そうという反動の動きも起こり「和魂洋才」という言葉もよく使われた。文明開化と「和魂洋才」について考える。
14	万博とジャポニスム	日本は慶応3(1867)年に初めて万国博覧会(パリ万博)へ出品参加をする。また、明治6(1873)年のウィーン万博にも参加する。それをきっかけに、日本美術(浮世絵、琳派、工芸品など)が目ざされ、西洋の作家たちに大きな影響を与えた。日本の万博参加と西洋で広まったジャポニスムについて考える。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	明治政府とお雇い外国人	日本には幕末から明治にかけて、「殖産興業」などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人であるお雇い外国人を官庁や学校に招聘した。そのなかで東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入したドイツ人外交官のオットマール・フォン・モールという人物がいる。そこで、オットマール・フォン・モールを中心にお雇い外国人について探る。

科目名	ヨーロッパ文化史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡		
開講期	I		
授業概要	【授業内容の概要】 現代文明の共通要素として大きな意味をもつヨーロッパ文化（欧米文化）の形成と近代化について、古代・中世～近現代にいたる過程を概観します。また歴史を大学の学問として学ぶ際の一つの切り口として歴史学の歴史と歴史観の問題に着目します。同じ事実が異なった解釈を生むことで歴史像が作り上げられ、変容することを学ぶことで、歴史とは単なる暗記科目ではないことを体感したいと思います。		
達成目標	【授業の目標・ねらい】 大学で歴史学を学ぶ基本姿勢を整え、現在の日本が直面する歴史問題や周辺諸国との関係、国際社会における役割などを正しく考える基本姿勢を育む。 【授業時の達成課題】 レポートの課題に対して、歴史学の知識を用いて論理的な文章を書くことが出来る。		
受講資格	地域創成学科学生・一般聴講生	成績評価 方法	授業の2/3以上の出席を前提条件として、期末レポート（1回100%）で評価
教科書	特に使用しない。WLRにパワーポイント資料を掲載。授業時に配布資料あり。		
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説2 近現代篇』DTP出版 2006年		
学生への要望	①地図を見る姿勢、②新聞・ニュースを見る姿勢、③高校世界史の基礎知識の確認を期待する。		
オフィスタイム	火曜のII時限目（10:30～12:00） 考古学研究室		
自学自習	事前学習： 授業資料（パワーポイント）を参照後打ち出し、必要に応じて高校「世界史」の教科書を読みこんでくる（1時間） 事後学習： 高校時代に使用していた歴史資料集を細目に参照して授業内容を確認する（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス 4月6日	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。
2	歴史学のあゆみ 4月13日	大学で歴史を学ぶための一つの切り口として「歴史学」の歴史を取り上げる。19世紀に確立した近代歴史学が、現在どのような状態にあるかを解説する。これによって歴史学とは、単なる暗記科目ではなく、現代社会と自己の関係を考えることになることを確認する。
3	古代世界① 4月20日	ギリシア・ローマをオリエント世界と共に古代地中海世界という独自の文明世界として考える立場を紹介する。
4	古代世界② 5月11日	ケルト・ゲルマンを中心に古代地中海世界の周辺民族文明について紹介し、ローマの滅亡が単純な「蛮族の侵入」として理解されるべきではないことを解説する。
5	古代世界③ 5月18日	古代末期（4～7世紀頃）に地中海世界が分裂していく過程を概観し、H.ピレンヌやH.オバンのテーゼなどを例に発想の転換の重要性を確認する。
6	中世世界① 前期中世（カロリング・ルネサンス） 5月25日	前期中世（7～10世紀頃）の西方世界がヨーロッパとして分離・形成されてくる上で重要なカロリング朝フランク王国の役割について解説する。
7	中世世界② 盛期中世（12世紀ルネサンス） 6月1日	盛期中世（11～13世紀頃）にキリスト教世界として確立するヨーロッパ文明圏の形成を概観し、この時期にヨーロッパが古代文明やビザンツ・イスラム世界などから継受した多様な文化を融合させながら独自の文化を確立した「12世紀ルネサンス」について解説する。
8	中世後期③ 後期中世（ルネサンス時代） 6月8日	後期中世（14～16世紀頃）のヨーロッパが封建制の危機の中で新しい価値観（人文主義）を手掛かりに、ルネサンスや宗教改革、大航海時代などに象徴される歴史の転換点に立ったことを解説する。
9	近世① 絶対主義時代 6月15日	近世（16～18世紀頃）を特徴づける絶対主義の構造を解説し、宗教戦争や重商主義政策などがヨーロッパ文明の世界への拡大と不可分に結びついていたことを確認する。
10	近世② 啓蒙主義と市民革命 6月22日	近世（16～18世紀頃）に顕著となる12世紀以来の個人主義・現実主義などがさまざまな形でヨーロッパ文明を特徴づけ、近代のヨーロッパ社会の形成へと繋がることを解説する。
11	近代① ヨーロッパの世紀 6月29日	19世紀のヨーロッパの変容を概観します。前半のウィーン体制の崩壊による近代市民社会の形成、後半のビスマルク体制の崩壊による世界大戦への疾走の歴史を解説する。
12	近代② 産業革命と帝国主義 7月6日	ヨーロッパの経済発展が民主的な近代市民社会の発展に大きな貢献を果たす一方で、帝国主義による世界支配を作り上げていったメカニズムを解説する。
13	近代③ 二つの世界大戦とファシズム 7月13日	列強の帝国主義政策が招いた二度の世界大戦の中で台頭した共産主義とファシズムという二つの亡霊の中で、まずファシズムのもつ現代的危険性について解説する。
14	近代④ 社会主義・共産主義と20世紀 7月20日	19世紀ヨーロッパで生まれたマルクス主義は、第一次大戦末期のロシア革命で最初の社会主義国家建設に成功し、第二次大戦後は東西冷戦の構造を作り出した。社会主義・共産主義を単なる遺物としてではなく、私たちの未来像との関係で捉え直したい。
15	まとめ 現代ヨーロッパの課題 7月27日（4月27日分補講）	イギリスの離脱などで揺れる統合ヨーロッパの歴史を概観し、EUが抱える今日的問題と私たちの関係を考えたい。

科目名	考古学	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	会田 容弘		
開講期	Ⅱ		
授業概要	考古学は物から人類の過去を明らかにする学問である。考古資料というモノからどのようにして人類の過去を明らかにするのか、考古学の基本的な考え方、方法について講義を行う。		
達成目標	＜到達目標＞考古学の基本概念、用語を理解し、考古学論文を読解するの十分な知識を得ること。		
受講資格	文化学科学生	成績評価 方法	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。60点以上を合格とする。考古学で卒業論文を作成する学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
教科書	浜田耕作『通論考古学』、泉拓良『考古学—その方法と現状』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。		
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の参考文献を読んでおくこと。（1時間） 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	考古学とは何か	考古学的な思考の成立と簡単な研究史を述べた上で、考古学の定義と範囲について述べる。考古学のめざすものについて、考古学の現代的諸問題を説明する。
2	考古資料論（1）	考古資料については浜田耕作の定義を紹介し、遺物、遺構、遺跡について説明し、それらを分類し、その特質を説明する。考古資料の特質、考古資料の資料的価値、考古学の限界について説明する。
3	考古資料論（2）	考古資料の分類を説明し、実際の遺物を実例を示しながら説明する。
4	発掘調査の方法	分布調査、測量調査、予備調査、本調査の方法について説明し、さらに文化財保護法にある発掘調査の法的手続きについて説明する。
5	発掘調査の実例	郡山女子大学短期大学部文化学科考古学研究室で2001年から継続して行っている笹山原遺跡No. 16の調査の積み重ねとその成果について、記録画像を見ながら説明する。宮城県東松島市里浜貝塚の発掘調査について調査の記録画像を見ながら説明する。
6	文化財保護法	日本では考古学と文化財は不可分の関係にある。戦後日本の考古学は埋蔵文化財保護のために莫大な予算を投入した。その法的背景にある文化財保護法について説明する。
7	層位学的研究法	特殊的研究法のひとつである層位学的研究法を概説する。 層位学的編年の例 1) 洞窟堆積層によるフランス旧石器の編年 2) 囚山灰編年学を用いた広域編年 3) 貝塚堆積層を用いた縄文土器編年
8	層位的研究法の実例	松本彦七郎博士の里浜貝塚の層位的発掘調査について、東北大学理学部に保管されていた松本資料を用いて再検討を行った。その結果松本博士は正しく層位的発掘を行っていたことが明らかになった。
9	型式学的研究法	古典的型式学。浜田耕作の型式学を説明し、O. モンテリウスや田中琢の例示した型式の組列を説明する。
10	型式学的研究法の実例	型式の考古学的意味について考える。J. ディーツとデスレフスの「ドクロ、智天使、柳と骨壺」の論文を説明し、型式の意味を考える。 型式の認定方法について様々な議論がある。ホッドソンが4人の考古学者と1人の解剖学者に留め針を分類させた結果とコンピュータを用いた分析について説明する。
11	暦年代決定の方法	暦は年代決定の物差しである。キリスト紀元をいかにさかのぼらせることができるか。エジプト王名表をもとに、民衆暦とソティス暦を繋ぎ合わせたマイヤーの研究を紹介する。
12	暦年代決定の実例	日本の先史時代の暦年代は中国の暦に頼らざるを得ない。中国と直接交渉のない時代は朝鮮半島を経由して暦年代を決定している。暦年代を決定する資料を紹介しながら、日本の暦年代について説明する。日本国内においても、暦年代を決定するためには大きな困難を伴う。文献と考古資料の間がそこにはある。文献や文字資料を用いて考古資料の相対編年に暦年代を与える問題点を検討する。
13	理化学的年代決定法（1）	理化学的年代決定法は暦とはまったく別の原理に基づいて年代を決定する方法である。地球の周期的な変化に基づく年代推定法と不安定な原子が崩壊する速度を時間の単位する方法がある。まず、地球の周期的な変化から説明する。年輪年代決定法の原理と実際の応用例について説明する。
14	理化学的年代決定法（2）	放射性炭素年代測定法の原理を説明し、その実際の測定方法、測定資料、測定例を紹介する。放射性炭素年代測定法の登場によって考古学界に起こった短期編年・長期編年論争について説明する。放射性炭素年代決定法によって明らかになった年代の実例。放射性炭素年代測定の補正によって暦年代に置きなおされた年代とその問題点を検討する。
15	考古学と現代社会	考古学と現代社会の関係を述べ、考古学の将来を考える。

平成30年度

科目名	美術史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	学芸員補（認定資格）選択科目。日本と西洋の美術史の基礎を理解し、鑑賞する力を身につける。		
達成目標	①地域や時代によって特徴のある美術が作られてきたことを理解する。②重要な作品と美術科についての確かな知識を得る。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	授業内で指示する課題（50%） 記述式の期末試験（50%）
教科書	特には定めない		
参考書	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』美術出版社、高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』美術出版社		
学生への要望	図書館、美術館を積極的に活用すること。授業内で指示した資料を良く読み、作品鑑賞に努めること。		
オフィスタイム	月Ⅴ、水Ⅴ		
自学自習	授業で扱う作品について、参考書等で予習、復習する。休みの日には近隣の図書館や美術館に行き、読解力と鑑賞力を高める。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	古代ギリシア美術	紀元前6世紀から紀元前1世紀までの神殿建築、彫刻、陶器画を映像等で鑑賞、その様式的変遷を理解する。
2	古典期様式のカノン	パルテノン神殿（BC. 5C）を中心に古典期様式の美の規範を理解する。定規とコンパスで黄金比を作図する。
3	ガンダーラ美術	初期の釈迦像を映像等で確認しヘレニズム美術が西インドで仏教と融合、仏像が誕生した経緯を理解する。
4	日本古代美術	神社建築等に見られる日本古来のさやかな美に、仏教伝来後に大陸的な美が加わった経緯を理解する。
5	日本仏像美術史	飛鳥、白鳳、天平、平安、鎌倉と変化した仏像の様式史を理解する。
6	中世後期キリスト教美術	巡礼路沿いに残るロマネスク様式と、都市の大聖堂に多いゴシック様式の違いを理解する。
7	平安時代の美術	遣唐使廃止後の国風化した王朝美術を<宇治の平等院><源氏物語絵巻>、十二単などから理解する。
8	鎌倉、室町時代の美術	鎌倉五山、鹿苑寺、慈照寺と水墨画を中心に、武士と禅宗の美術を理解する。
9	初期ルネサンス	15世紀フィレンツェの彫刻、絵画を映像等で鑑賞理解する。一点透視の遠近法の作図をする。
10	盛期ルネサンス	16世紀初期のレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの代表作を映像等で鑑賞理解する。
11	桃山美術	戦国大名の美意識を表現した大胆で絢爛豪華な美術を映像等で鑑賞理解する。南蛮文化、茶の湯にも言及。
12	バロック、ロココ美術	17世紀、18世紀の神話画、宗教画、人物画、風景画を映像等で鑑賞理解する。パステル画に挑戦する。
13	近代西洋絵画	19世紀のフランスを中心とする西洋絵画の変遷を、映像等で鑑賞理解する。近隣の美術館案内をする。
14	浮世絵とジャポニスム	江戸時代末の浮世絵木版を鑑賞理解し、それらがフランスでジャポニスムを引き起こした経緯を理解する。
15	印象派から20世紀美術へ	日本と欧米の交流が盛んになり、東西の美術が刺激し合って発展きた経緯を理解する。

科目名	宗教文化史	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	福島 寅太郎		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。</p> <p>〔授業の概要〕</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。 本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。 本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当て、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。</p>		
達成目標	<p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。
教科書	『心経禅解—生活禅から「般若心経」を読む』（浄慧著、東京・山喜房佛書林、2018年）。購買部で買い求めることができる。教室でも販売する。3800円		
参考書	特になし。		
学生への要望	ノートをこまめにとること。		
オフィスタイム	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時（12時～12時40分）。担当教員の研究室（創学館No. 5）		
自学自習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に毎回1時間程度の学習をすること。 ・事後にノートの整理などに1時間程度の学習をすること。 		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。
2	生活と宗教（1）～アップル製品は何故シンプルか～	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしなが、生活における禅の役割を考える。
3	生活と宗教（2）～今どうして禅なのか～	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。
4	生活と宗教（3）～今はどうして生活禅なのか～	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。
5	生活と宗教（4）～ダルマとは誰か～	「達磨さんが軋んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがある。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。
6	生活と宗教（5）～般若心経とはどんな教えを説いているのか～	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。
7	生活と宗教（6）～心の三次元～	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にする文化的装置である。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。
8	生活と宗教（7）～心の成長物語～	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。
9	生活と宗教（8）～悩みはどこから来るのか～	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。
10	生活と宗教（9）～特別授業～	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。
11	生活と宗教（10）～特別授業～	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。
12	生活と宗教（11）～生活と宗教との関わり～その一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。
13	生活と宗教（12）～生活と宗教との関わり～その二	前回の続き。人間らしく生きるためにはどうしたらいいか、人間の本質とは何かについて教科書を参考にしながら、考えてみる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	生活と宗教（13）～まとめ～	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。
15	最終回～まとめ～その②	授業の内容を踏まえつつ、建学精神である「尊敬・責任、自由」の意義を再び考えることにする。

平成30年度

科目名	社会福祉概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	I			
授業概要	現代社会の生活問題に注目しつつ、日本の福祉制度について概要を学ぶ。			
達成目標	現代社会における福祉の課題が理解できている。 社会的困難を抱えている人々のニーズと福祉サービスについて理解できている。			
受講資格	地域創成学科 1年、音楽科 1年	成績評価 方法	期末試験 80%	小テスト 20%
教科書	随時プリントを配布します			
参考書	授業の中で、紹介します			
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。			
オフィスタイム	金曜日の3・4限目（創学館4階 No.6研究室）			
自学自習	予習：シラバスの内容を確認し、文献、新聞等で調べておく（30分） 復習：授業内容をノートにまとめる（30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概略を説明する。 地域における福祉の課題について考え、グループで討議する
2	社会福祉の意義	具体的な事例により、現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する
3	社会福祉の理念	『サイレントプア』の視聴により、地域の福祉課題に目を向ける
4	生活と社会保障	生活を支える仕組みとしての社会保障の全体像について解説する
5	家庭児童福祉	児童家庭福祉の対象となる人々の状況を学ぶ 国の制度と地域で実践されている社会福祉活動について学ぶ
6	障がい者の福祉	障がい者の実態を学び、ニーズを理解する 障がい者を支えるサービスの概略を解説する
7	高齢者の福祉①	高齢者の心身の状況を理解する 高齢者を取り巻く状況を学ぶ
8	高齢者の福祉②	介護保険制度の概略を解説する 認知症高齢者について学ぶ
9	地域福祉①	コミュニティと生活課題
10	地域福祉②	社会資源について解説する。自分の生活する地域の社会資源について調べる（グループワーク）
11	地域福祉③	社会資源について調べた内容をグループごとに発表をし、理解を深める
12	少子高齢化時代の福祉政策	現代社会の大きな課題である少子高齢社会について概観する。その中で福祉政策の調整と進展についてどのように進められてきたかを知る
13	社会福祉実践の場	社会福祉の実施機関、社会福祉施設の概要について学ぶ
14	社会福祉の専門職	社会福祉の分野で働く専門職、ボランティア、NPO法人について学ぶ
15	まとめ	半期の講義を振り返り、まとめを行う。

科目名	デッサン I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章,		
開講期	I		
授業概要	「デッサンは芸術の実体そのものである。輪郭をなぞるだけではデッサンにはならない。デッサンというものはただ線だけを問題にしてはいけないのだ。デッサンもまた独自の表現であり肉付けなのである。一アングル（画家）」このようにデッサンには最小限の材料や色彩によって表現されたシンプルな美しさと厳しさがある。本授業では造形活動の基礎となるよう「見る・描く」を繰り返すことで物の本質に迫り、描写力と表現力を養う。なお今年度は域創成学科への移行の年ということもありJA福島さくらとの連携協定事業により屋外での壁画制作を実施する。学外現場での複数コマ実習となるため学園休業日や夏季休暇期間等を利用して集中的に制作する。		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力する。そのうえで個性ある、自分だけのデッサン空間を創りあげていくことを目標とする。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし		
参考書	例一アングル・ダヴィンチ・ラファエロ・ロダンなどのデッサン集・その他、授業に関連する画集等は適宜指示をする。		
学生への要望	すべての造形活動の基礎であるデッサンの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
オフィスタイム	授業に関する質問は毎週火曜日から金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に閲覧、研究しておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション及びクローッキーー 1	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 人物クローッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。
2	同上	人物クローッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。
3	クローッキーー 2	人物クローッキー ・クローッキー（Croquis）とは速写、略画など短時間でこなす写生のこと。 ・学生が輪になり、順番にモデルになる。
4	同上	人物クローッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。
5	鉛筆デッサン	人物を描く ・鉛筆デッサンは形や調子を正確にとったり造形的な線の成り立ちを理解したり的確で微細な描写に優れた特性を持っている。 ・学生同士、お互いにモデルになりながら描く。
6	同上	人物を描く ・モデル学生の特徴や雰囲気等を深く観察する。モデル学生に肉薄し、完成に近づけていく。
7	木炭デッサンー 1	石膏像デッサン ・木炭デッサンは柔らかな材質感と描きやすさ、パン等の消し具を使い、消したり描いたり自由で簡単に出来るという特性を持っている。 ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。
8	同上	石膏像デッサン ・引き続き、全体の形を整えながら徐々に細部の描写に入っていく。
9	木炭デッサンー 2	石膏像デッサン ・石膏デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素が含まれる造形の基礎的な訓練の一つである。 ・デッサンも2週目に入り全体の形を整えながら細部を仕上げしていく。
10	同上	石膏像デッサン ・デッサン最終コマ。細部を描写しつつ全体の形を整えながら仕上げしていく。
11	地域連携事業壁画制作ー 1 （事前準備）	壁画制作のためのアイデアスケッチ ・JA福島さくらとの地域連携事業 ・制作現場画像資料を参考に更紙やスケッチブックにアイデアや構想を描いてみる。
12	同上	同上
13	地域連携事業壁画制作ー 2 （事前準備）	壁画制作のためのアイデアスケッチ ・JA福島さくらとの地域連携協定事業 ・前回同様、更紙やスケッチブックにアイデアや構想を描いてみて具体的な壁画イメージを固めていく。
14	同上	同上

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	地域連携事業壁画制作－3 (現場実習1日目)	壁画共同制作 ・JA福島さくらとの地域連携協定事業 ・送迎バス等により現場へ移動 ・絵具、刷毛、各種容器等、壁画制作に必要な材料を準備
16	同上	同上 ・実際の現場状況に合った作業手順を検討する。 ・マスキングや養生準備 ・アイデアスケッチ原画を参考に大まかな外形を該当壁面に写す。
17	同上	同上 ・なるべく原画に忠実となるよう色を調合し壁面に彩色する。
18	同上	同上 ・後片付け、帰校準備
19	地域連携事業壁画制作－4 (現場実習2日目)	壁画共同制作 ・JA福島さくらとの地域連携協定事業 ・送迎バス等により現場へ移動 ・絵具、刷毛、各種容器等、壁画制作に必要な材料を準備
20	同上	同上 ・なるべく原画に忠実となるよう色の調合をし壁面に彩色する。
21	同上	同上 ・絶えず全体感を確認しながら作業する。
22	同上	同上 ・後片付け、帰校準備
23	地域連携事業壁画制作－5 (現場実習3日目)	壁画共同制作 ・JA福島さくらとの地域連携協定事業 ・送迎バス等により現場へ移動 ・絵具、刷毛、各種容器等、壁画制作に必要な材料を準備
24	同上	同上 ・なるべく原画に忠実となるよう色の調合をし壁面に彩色する。
25	同上	同上 ・全体感を最終確認
26	同上	同上 ・仕上がった壁画を画像データとして記録する。 ・壁画作品を前にして講評会を実施する。 ・後片付け、帰校準備
27	映像メディア表現－1	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・各自カメラを持ち開成山公園で自由に取材をする。それを次週までにプリントしておく。
28	同上	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・他人とは違う自分だけの視点、切り口により様々なアングルで興味ある場所を撮影する。撮影したものは次週までにプリントアウトしておく。
29	映像メディア表現－2	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・前回取材しプリントアウトした写真を並べ簡単な意見交換会 ・その写真を自由に拡大・縮小コピーして台紙に貼り、更に彩色をして作品にする。
30	同上	建物の入った風景と人物の構成(コラージュ絵画) ・制作最終コマ。全体感を損なわないように彩色をして完成に向かう。 ・講評会、意見交換及びデッサンIの総評

科目名	デッサンⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	Ⅱ		
授業概要	デッサンは線的な手段を用いて対象の輪郭、構造、量感、質感などを探り出す技術の総称です。また絵画表現の基礎的な物の見方の訓練としても大切なものであります。ここではデッサンⅠの授業内容を引き継ぎ更に一步踏み込んで学生各自の個性に合わせ、徐々に表現内容、素材の幅を広げていきます。		
達成目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえでより確かな描写力と表現力を養うことを目標とします。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし		
参考書	授業に関連する画集等は適宜指示する。 例―画家のスーラ・ゴッホ・セザンヌ・ピカソなどのデッサン集		
学生への要望	デッサンすることの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。 【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要な場合はポートフォリオなどを製作する。（1時間）		
オフィスタイム	授業に関する質問は毎週火曜日から金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要な場合はポートフォリオなどを製作する。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション及びフロッターージュ	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 ・フロッターージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮かあがらせるという技法。 ・学内や開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッターージュをする。（木炭・鉛筆・チョーク等使用） ・放射線量に細心の注意を払い、長時間の屋外滞在は避け効率よく実施する。
2	同上	同上
3	人物クロッキー―1	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用）
4	同上	同上
5	人物クロッキー―2	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用） ・二人ポーズや1分クロッキー
6	同上	同上
7	石膏像デッサン―1	石膏像デッサン ・石膏像デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素を正確に把握し客観的に造形化する基礎的な訓練である。 ・細部にとらわれず、たえず全体とのバランスを見る。
8	同上	同上
9	石膏像デッサン―2	石膏像デッサン ・対象をよく観察し、形態や大きな構造をとらえる。 ・全体的な像の量感、質感をはっきりさせ反射光などの淡い調子も意識しながら完成へと向かう。
10	同上	同上
11	鉛筆構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせて鉛筆デッサンする。 ・強く握ったり、やさしく握ったり、いろいろ角度を変えたりして自分の手をよく観察する。 ・自分が美しいと思う手の表情が出来たら、いくつか組み合わせてデッサンする。
12	同上	同上
13	色彩を使った構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせてパステル、水彩等の色材でデッサンする。 ・観察が大事で基本的には前回の鉛筆デッサンと同じだが、ここでは描画材料の特質を引き出し色彩的効果を考えながら制作する。
14	同上	同上
15	静物デッサン―1	トレーシングペーパーを含んだ静物を描く。 ・トレーシングペーパーと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・単なる静物デッサンと違いトレーシングペーパーから少し透けて見える部分の微妙な違いを描き分ける事により物の質感の把握、鉛筆の技法等の向上が期待できる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	同上	同上
17	静物デッサン-2	透明フィルムを含んだ静物を描く。 ・透明フィルムと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・前回のねらいとほぼ同じだが透明感及び光沢を表現するという事でより高度なデッサン力が要求される。
18	同上	同上
19	人物木炭デッサン-1	人物木炭デッサン ・モデルを使い最初は数分のクロッキーから始め、幾つかのポーズにしぼり、その中から多数決で固定ポーズを決める。 ・生きている人のまさに生き生きとした表情を自分なりに表現してみる。
20	同上	同上
21	人物木炭デッサン-2	人物木炭デッサン ・モデルを使い固定ポーズで描く。 ・全身の立体感などを忘れずに顔や手の表情もよく観察して完成へと向かう。
22	同上	同上
23	自由制作-1	自由制作 ・ダンボールを支持体として使った、一年間の集大成としての作品創り。 ・ダンボールは木炭や鉛筆描画の他、地塗りや彩色、更には切り張りといった加工がしやすい材料である為、様々な可能性がある。 ・スケッチブックや更紙に構想を練る。
24	同上	同上
25	自由制作-2	自由制作 ・基本的には平面制作であるが多少の立体表現は問わないので各自、自由な発想とダイナミズムを忘れずに構想を詰める。 ・コラージュを含める学生は材料を集める。 ・ある程度、エスキース（下絵）が煮詰まったら制作を開始する。
26	同上	同上
27	自由制作-3	自由制作 ・制作も山場にはいり、作品が除々に具現化してくる。 ・墨汁や彩色、あるいは接着剤使用で乾燥が間に合わない場合はドライヤー等も使い来週の完成を目指す。
28	同上	同上
29	自由制作-4と講評会	自由制作 ・作品制作も佳境に入り細部の仕上げなど、まとめにはいる。 講評会 ・各自、自由制作の作品を並べ制作コンセプトを発表する。その後、学生との意見交換も含めた講評会を実施する。 ・デッサンⅡ及び1年間の総評。
30	同上	同上

科目名	油彩画 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し愛され生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないでしょう。その中でも油絵は油絵具によるもので非常に便利で自由、しかも高度な表現が可能とされています。それだけに可能な限りの新造形運動の実験の場となり総合的な表現スタイルをとっている分野でもあります。本授業では基礎的な技法の理解と研究を行ない、一步一步自分の作品の制作向上を計りながら、更にデッサンの授業と相まって描写力と表現力を養うことを目的とします。		
達成目標	油彩画の特質を十分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りだしていくことを目指します。		
受講資格	地域創成学科 1年生、生涯学習講座受講生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	特になし		
参考書	・新技法シリーズ絵画技術入門…佐藤一郎（美術出版社） その他、授業に関する画集、資料などは適宜指示する。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、技法に早く慣れ、自分の世界を創っていく。また主体的、積極的な姿勢で授業に望む。		
オフィスタイム	授業に関する質問は毎週火曜日から金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連する画集などを事前に関連、研究しておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や画廊などに足を運び、実物の油彩画作品を鑑賞してみる。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	ガイダンス ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検…各自、油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（F20号キャンバスを含む）
2	静物画ガイダンス	静物画のモチーフ（描画対象）制作 ・静物画制作では身近な“物”の美しさを発見し自分の内的感情を追求してゆく。 ・全員でモチーフ倉庫に行き各自好きな静物を選びそれを組み合わせてモチーフを作る。
3	静物画制作－1	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・静物の全体感を損なわないように気を使いながら構図を徐々に決めてゆく。
4	静物画制作－2	作品制作 ・油絵具、オイルなどの基本的な使用方法を具体的に解説しながら指導する。 ・まず、固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。
5	静物画制作－3	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・ペインティングナイフ（油彩画専用コテ）や絵画用砂を使いマチエール（画肌）や画面に変化を与える。
6	静物画制作－4	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。
7	静物画制作－5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば反対色は強烈な効果が生まれ、同色系は統一した効果が生まれる。
8	静物画制作－6	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探してゆく。
9	静物画制作－7	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握してゆく。
10	静物画制作－8	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る ・制作もかなり進んできたが、描きこむ事によって表現が硬くならないように注意する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	静物画制作－9	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・かなり完成に近づいてきたが完成まで手を抜かず細心の注意をはらう。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。
12	静物画制作－10	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の形とバランスを再確認しながら完成へと向かう。
13	静物画制作－11	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成にする。
14	静物画講評会	静物画講評会 ・仕上がった静物画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指す。
15	風景スケッチ	・Ⅱ期から始まる風景画の為の準備スケッチ。各自構内を自由に散策しながら好みの場所を探す。
16	風景画ガイダンス	※これよりⅡ期 風景画ガイダンス ・風景画制作のポイントや具体的方法を指導する。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。 ・各自、大学構内の好きな場所で油彩画制作を視野に入れながらスケッチをする。
17	風景画制作－1	作品制作 ・風景写生は外に出て自然の美しさの中にひたり、そこでの一体感から始まる。 ・風景画制作の為の場所（大学構内）を決定する。 ・カリキュラムスケジュール上、期間が晩秋に至るので風景の色合いや雰囲気の変化なども考慮に入れる。
18	風景画制作－2	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・参考資料や画集、デッサン集も適宜見せながら指導する。
19	風景画制作－3	作品制作 ・キャンバスに入る風景の全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めていく。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。
20	風景画制作－4	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば木の葉の塊、道、空などを色面で捉えてみる。
21	風景画制作－5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・画面の中で強調、又は不必要なものを省略しながら形を探っていく。
22	風景画制作－6	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。 ・画面をまとめるにあたり、もう一度画面構成を確認してみる。
23	風景画制作－7	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・完成に近づいてきたが完成までは手を抜かず細心の注意をはらう。
24	風景画講評会	風景画講評会 ・仕上がった風景画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画風景制作の目標達成を目指す。
25	人物画ガイダンス及び人物画制作－1	作品制作（クロッキー） ・人物モデルによるクロッキーを4回実施し、その中から固定ポーズを決める。 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。
26	人物画制作－2	作品制作（固定ポーズ） ・人物の全体感を損なわないように気をつけながら徐々に構図を決めていく。 ・単純な描写だけではなく、人物の内に秘められたキャラクターや美しさなども同時に表現しようと試みる。
27	人物画制作－3	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・光の方向や色彩の取り入れ方なども工夫してみる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	人物画制作－４	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・バックとの関係に気をつけながら人物の顔や衣装を描き込んでいく。
29	人物画制作－５	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。
30	人物画講評会及び油彩Ⅰの総評	講評会 ・仕上がった人物画作品を並べ、画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画人物制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅰの一年間の総評及び反省

平成30年度

科目名	塑造表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、もの与人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。塑造とは彫刻の技法の一つで、粘土などの可塑性のある素材で彫刻作品をつくる事を言います。塑造表現の授業では粘土による造形、石膏取りなどの技法、テラコッタ（焼成による造形）を体験し、彫刻の基礎的な技法や表現を身につけ、ものをつくる喜びや達成感を味わう事を目標とします。		
達成目標	塑造作品の制作を通して、塑造の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的にを行い、学習の成果を確認する機会とします。		
受講資格	地域創成学科1年生 生涯学習生	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品 70% ・授業態度 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。
教科書	特に無し。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等 		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
オフィスタイム	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日 Vコマ ・水曜日 Vコマ ・木曜日 I～IIIコマ 彫刻室、生活芸術科No.2研究室		
自学自習	事前学習、事後学習：授業の内容についてより理解を深めるため授業外にも課題制作を進めて下さい。（目標週1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	塑造表現の授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・塑造表現の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習
2	頭像制作	<ul style="list-style-type: none"> ◆塑造について学習する 塑造の初めての学習として、友人の頭像をつくることで、彫刻の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、塑造の基礎的技法（芯棒づくり、石膏取りなど）の習得を目指す。 《課題についての説明とデッサン》 ・頭像をつくる目的、意義について ・具象彫刻についての学習 ・グループ分けを行いデッサンする
3	頭像制作	《芯棒制作と粘土練り》 <ul style="list-style-type: none"> ・芯棒を作る ・粘土を練る
4	頭像制作	《モデリング・1》 <ul style="list-style-type: none"> ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する
5	頭像制作	《モデリング・2》 <ul style="list-style-type: none"> ・第4回と同じ
6	頭像制作	《モデリング・3》 <ul style="list-style-type: none"> ・前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・注意する点 <ol style="list-style-type: none"> 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか
7	頭像制作	《モデリング・4》 <ul style="list-style-type: none"> ・第6回と同じ
8	頭像制作	《モデリング・5》 <ul style="list-style-type: none"> ・完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げていく
9	頭像制作	《モデリング・6》 <ul style="list-style-type: none"> ・第8回と同じ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	頭像制作	<p>《石膏取り・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる <p>《石膏取り・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる <p>《石膏取り・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石膏取りについて学習する ・雌型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる
11	頭像制作	<p>《石膏取り・2》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雄型をつくる <ol style="list-style-type: none"> 1、離型剤を雌型に流し込む 2、雌型に石膏液を流し込む 3、スタッフで補強する
12	頭像制作	<p>《石膏取り・3》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・割り出し、修正を行う ・乾燥後着色
13	頭像制作	<p>《石膏取り・4》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回に同じ
14	頭像制作	<p>《台座制作》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台座について理解する ・木材で台座を制作後、頭像を設置する
15	頭像制作	<p>《合評会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭像作品の合評会を行う
16	テラコッタ 1	<p>◆塑造（モデリング）の表現の一つである、テラコッタについて学習する。粘土の練り方や保管の方法など、理解する。</p> <p>テーマは自由。各自彫刻性を意識したものを構想し、制作する。</p> <p>《アイデアデッサン》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に構想を練りながらデッサンする
17	テラコッタ 2	<p>《モデリング・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土の練り方を練習する ・手びねり（芯棒を用いない）で制作する
18	テラコッタ 3	<p>《モデリング・2》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第17回に同じ
19	テラコッタ 4	<p>《モデリング・3》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第17回に同じ
20	テラコッタ 5	<p>《モデリング・4》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第17回に同じ
21	テラコッタ 6	<p>《モデリング・5》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第17回に同じ
22	テラコッタ 7	<p>《モデリング・6》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼成の準備 <ol style="list-style-type: none"> 1、少し乾燥させた作品の内側を空洞にする 2、量のある部分は穴を開けるなど、空気の逃げ道を作る
23	テラコッタ 8	<p>《モデリング・7》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第22回に同じ
24	テラコッタ 9	<p>《モデリング・8》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第22回に同じ
25	テラコッタ 10	<p>《モデリング・9》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第22回に同じ ・やすりをかけるなど、乾燥した粘土でなければ出来ない造形を行う

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
26	テラコッタ 11	《モデリング・10》 ・第22回と同じ
27	テラコッタ 12	《モデリング・11》 ・第22回と同じ ・着色について学習する
28	テラコッタ 13	《モデリング・12》 ・第27回と同じ ・台座の制作を行う
29	テラコッタ 14	《モデリング・13》 ・第28回と同じ
30	テラコッタ 15	《合評会を行う》 ・テラコッタ作品の合評を行う

科目名	基礎デザイン	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 この授業ではデザインの基本的な考え方や提示の仕方を学びます。点・線・面など構成の基礎となる造形の諸要素を知り、色彩を体系的に把握します。</p> <p>【授業の概要】 5つほどの課題に取り組みながら、他者への発信の仕方やその技法などを学びます。</p>		
達成目標	日常生活の中で一定の情報をわかりやすく、視覚的に伝えていく表現の一つにデザインがあります。デザインは常に目的が明確であり、新しい価値を産み出すものであるということを理解してください。デザインは、発想は自由でも表現方法まで自由に行きとげは限りません。社会的なメッセージとしての側面を忘れることなく、伝達内容を色や形で象徴的に表したり、効果的に訴えるために図柄や文字のレイアウトを工夫して美しく仕上げたりすることが求められます。「視覚言語としてのデザイン」が社会で果たす役割について考えてください。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	制作姿勢(20%)、課題作品の提出状況と達成度(80%)の他、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。
教科書	特になし(必要に応じて配布します)		
参考書	現代デザイン事典(平凡社) デザイン概論(ダヴィッド社) など		
学生への要望	デザインがわたしたちの生活にどのように関係し、長い歴史の中で何をしてきたのかを知る努力を継続的に行ってください。広い視野で世の中を見るよう心掛け、ポスターやシンボルマーク、サインなどが人々に与える影響に関心を寄せてください。また、美術館・博物館などへ足を運び、ワークショップなどにも積極的に参加してください。		
オフィスタイム	平日8:30~17:00 (No.1生芸研究室)		
自学自習	①事前学習 授業内容をシラバスで確認すること (30分) ②事後学習 授業で取り組む課題や配布資料を作品ファイルとしてまとめること。(30分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	基礎デザインの授業内容について説明し、生活の中のデザインについて考える。 また、必要な材料とデザイン用具について説明する。
2	点・線・面の構成	点が平面構成の原点であることを理解する。点と点の関連性から線や面への可能性を考える。美しいデザインを考えるとときに必要とされるいくつかの要素には、リピテーション(リズム)、コントラスト、シンメトリー、グラデーション、アクセント、ムーブメントがある。ここではシンメトリー(左右対称、点对称、平行移動など)について理解する。 【課題1】 丸型シールを使用して、200×200mmの正方形の内側に5つのテーマに従って秩序ある配置を心掛け自由に表現する。 ①集合のイメージ ②拡散のイメージ ③感情のイメージ ④匂いのイメージ ⑤色のイメージ
3	水貼り技法体験	「水貼り技法」の体験 B3サイズのパネルにケント紙を水張りする。紙を水張りすると水溶性の絵具をのせても紙の平滑性が保たれ制作しやすい。 「烏口」の体験 烏口は直線や円弧、曲線など様々な種類の線が引ける製図用具である。 コンピュータの普及により手作業で線を引く機会はほとんどなくなったが、道具の扱いや絵具の濃さを知り、またマスキングテープを用いて烏口との違いを体験する。(烏口は学科で用意する)
4	色相環をつくる ①	色彩を体系的に把握するために、カラーチャート(日本色彩研究所の配色体系:基本色表シリーズ4)をもとにして24色の色相環をつくる。 【課題2】 ①ケント紙を水張りしたB3パネルを横に使用して、パネルの中央に色相環の下書きをする。 ②カラーチャートを参考に、8/黄、12/緑、17/青、20/青紫、22/紫、2/赤、5/橙を先に塗る。
5	色相環をつくる ②	(配布資料に基づき制作を進める) ③次に②の色の中間色を塗る。 色あわせは紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。
6	色相環をつくる ③	(配布資料に基づき制作を進める) ④紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。
7	色相環をつくる ④	(配布資料に基づき制作を進める) ⑤紙片(ケント紙の余った紙)に絵具を塗りながらPCCS色相環の色に合わせていく。
8	色相環をつくる ⑤	(配布資料に基づき制作を進める) ⑥修正を繰り返しながら色相環を完成させ、すべての色がカラーチャートに近いことを確認してパネルごと提出する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	ピクトグラム ①	ピクトグラムの代表例である「非常口のサイン」「トイレのサイン」などを通して、ピクトグラムの歴史を学び、身近なピクトグラムの必要性和重要性を考える。
10	ピクトグラム ②	【課題3】 配布資料を使用して人間の動作についての形を考える。 ①指定のパターンを自由に組み合わせて人間の動きについて観察し、形を探る作業を行う。 ②それぞれ10個以上の形をラフスケッチ用紙に記録する。
11	ピクトグラム ③	(配布資料に基づき作業を進める) ①指定のパターンを自由に組み合わせて人間の動きについて観察し、形を探る作業を行う。 ②それぞれ10個以上の形をラフスケッチ用紙に記録する。
12	ピクトグラム ④	(配布資料に基づき作業を進める) ①スケッチの中から「歩く」「走る」「跳ぶ」の形を1セットとして選ぶ。 ②ケント紙に決定したピクトグラムを製図して黒のアクリル絵具で仕上げ提出する。
13	編集デザイン ①	主に、印刷物を中心とした編集デザインについて学ぶ。 ①判型と版面の設計について ②版面に盛り込まれる要素について ③文字について（・和文フォントと英文フォントの違い ・文字の種類 ・文字の大きさ など） ④字間と行間について ⑤マークやロゴについて ⑥色彩計画（色と配色）など 【課題4】 自分の名刺を制作する。 ①名刺に使うためのマークやロゴを制作する（自作）
14	編集デザイン ②	(配布資料に基づき作業を進める) ②書体を決める（既成のものでも自作のものでも可） ③レイアウトを考えながら制作し提出する。
15	まとめ	【まとめ】 これまでの課題について振り返り、生活の中のデザインについて考える。

科目名	絵本とイラストレーション	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	松田 理香		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 人は言葉によるコミュニケーションだけでは補いきれないものを絵や画像によって表してきました。「わかりやすさの追求」は普遍的な要求で、共通の伝承・伝達のための手段として絵本も例外ではありません。簡易な絵本を制作しながらイラストレーション表現のためのさまざまな技法について学び、「伝える」ことの重要性を学んでください。</p> <p>【授業の概要】 表紙、扉、本文、裏表紙を合体して16pの絵本を制作します。既刊の代表的な絵本も参考にしながら、文字やイラストレーション、写真、切り絵、飛び出す絵本など、各自のコンセプトに合わせた表現方法で絵本を制作し完成させます。</p>		
達成目標	編集デザインの視点から絵本を制作します。絵本を手にする対象(年齢や場面など)を具体的にイメージしながら制作してください。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	提出作品〔絵本〕(80点)、本の装丁や編集デザインの理解度など(20点)を総合的に判断します。
教科書	簡易な装丁本の制作手順資料を配布します。		
参考書	既刊の絵本や写真集等の資料を提示します。		
学生への要望	各自の表現方法を活かしながら、オリジナルの手作り絵本を完成させてください。また、アニメーションなどの映像表現との違いを知り、あるいはコラボレーションの可能性など、これからの絵本のあり方についても追求してください。		
オフィスタイム	平日8:30~17:00 (No.1生芸研究室)		
自学自習	<p>①事前学習 制作条件や準備物などを確認すること。制作においては創意工夫を心掛け、より良い作品のヒントを得るために多くの絵本を参照してください。(30分)</p> <p>②事後学習 条件に合う作品となっているかを確認してください。授業で取り組んだことを踏まえて既刊の絵本を見たり、美術館などでイラストレーション作品に触れる機会を得てください。(1時間以上)</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1. 本の装丁について学ぶ。特に、絵本の装丁の魅力を再確認する。 2. イラストレーション表現に面白さがある本、構成や造本、色調に工夫がある本など、デザインの視点から絵本を見る。本の構造や種類、本の部位の名称について学ぶ。
2	絵本について	1. 絵本について 1) 絵本とデザイン 2) 絵本とアニメーション 3) 絵本とマンガ 4) 絵本とアート 2. 絵本の表現技法について(色、形、技法、仕掛け、材料、基材など)
3	<絵本の構成と構造> ストーリーを考える ①	1. 材料、制作上の諸注意、授業の流れについて確認する。 2. オリジナルの絵本をタテ型とヨコ型のどちらにするか決める。 3. 本文に、文字や文章を入れるか、絵柄だけで構成するかなど、配布するストーリーボードを用いて16ページの構成(流れ)を考える。 ①ストーリー性を持たせるかどうか・・・起承転結、始めと終わり、使用前と使用後 など ②文字や文章を入れるかどうか・・・文字や文章のみとするか(あ～ん、AtoZ) など ③既成の詩や物語などに図柄をはめ込む、オリジナルの解釈を加える など 4. ストーリーに合う表現方法を決め、適した材料を用意する。 ・水彩表現 ・切り絵(貼り絵)、切り抜き ・色鉛筆 ・版(木、消しゴム等) ・エンボス加工 など
4	ストーリーを考える ②	1. オリジナルの表現を吟味する。試しに描いてみる。 2. ストーリーボードをもとに、文字や文章を入れる場合のレイアウトを検討する。
5	ストーリーを考える ③	1. レイアウトの確認1ページ(扉)から16ページまでの流れを決める。見開きのページを挿入するなど、読み手を意識して、盛り上がる場面を作るなどの工夫をする。 2. 色材などの検討紙は両面使用なので裏写りしないかなどの試作を行う。他の加工を希望する場合も同様に試作を行う。
6	中身(本文)を制作する ①	1. ページの順番を確認しながら中身を制作する。既成の絵本やイラストレーション作品なども参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 2. キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。
7	中身(本文)を制作する ②	1. ストーリーが読み手にとって内容が伝わる構成になっているか確認しながら作業を進める。 2. 読み手を意識して制作する。
8	中身(本文)を制作する ③	1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。
9	中身(本文)を制作する ④	1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	表紙の台紙を作る ①	○絵本の完成形状（タテ型にするかヨコ型にするか） 1) 本のページ構成の確認 ①表紙と裏表紙・背 ②見返し（接着面・遊び紙・奥付）③本文16ページ（両面使用のため用紙は8枚） 2) 中身（本文）に合うように表紙・裏表紙となる色紙を選ぶ。 3) 表紙・裏表紙に合わせて見返し紙を選ぶ。 4) 中身（本文）の制作を完成させる。
11	表紙の台紙を作る ②	5) 配布の資料に基づき、台紙となる芯地のボール紙を切る。 6) 表紙の色紙でボール紙をくるむように貼り、台紙を仕上げる。
12	表紙のデザイン ①	○表紙と裏表紙のデザイン 1) 作品タイトル、作者名、出版社名、また価格やバーコードなど絵本に必要な情報を決める。必要な情報をどのようにレイアウトするかも含めてバランスを見ながら検討すること。 2) 中身（本文）に合わせた表現の表紙と裏表紙を制作する。
13	表紙のデザイン ②	3) 中身（本文）に合わせた表現の表紙と裏表紙を完成させる。 4) ノドの位置やページの順番、扉や奥付に必要な情報が入っているかを確認する。
14	中身を立てる	○合本1) 最終的な仕上がりを予想して表紙と中身を組み合わせる。 2) タテ型、ヨコ型とも、紙の目、ページの順番や枚数などが合っているか確認する 3) 天地とチリが合っているか確認する。 4) 美しい仕上がりを追求する。
15	まとめ（鑑賞と講評）	○合評会と作品提出 1) 作品発表 お互いの作品を鑑賞し、内容や仕上げについて感想を述べ合う。 2) まとめ

科目名	CG基礎 I	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①コンピュータによる造形表現を行なう上で必要とされる基本的知識と技術を理解すること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①グラフィックアプリケーション (Paint系、Draw系) の操作方法を学修する。</p> <p>②Paint系、Draw系アプリケーションにおいて、オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作を学修する。</p> <p>③スキャナー、プリンター、デジタルカメラの操作方法を学修する。</p>		
達成目標	<p>①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的理解が為されている。</p> <p>②グラフィックアプリケーション (Paint系、Draw系) の基礎的操作方法を習得している。</p> <p>③コンピュータ周辺機器 (スキャナー、プリンター、デジタルカメラ) の操作方法を習得している。</p> <p>④コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。</p>		
受講資格	地域創成学科 1年	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。 ①課題作品の制作過程 (40%) ②課題作品 (40%) ③課題作品の提出状況 (20%)
教科書	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 ・当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。 		
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室		
自学自習	<p>事前学習：当日の授業内容をテキストで確認しておくこと (1時間以上)</p> <p>事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること (1時間以上)</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ● CG基礎 I の授業計画と授業目標 → CG基礎 I の授業計画と授業目標について説明する。 ●CG演習室の使用方式/機器設備 →CG演習室の使用方式と機器設備について説明する。授業で使用するコンピュータに個々のアカウントを作成する。
2	Paint系アプリケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ●Paint系アプリケーションについて説明する。 →Paint系アプリケーションとビットマップ画像の特性について理解する。 ●Photoshopのインターフェイス →実際に使用するペイント系アプリケーションPhotoshopのインターフェイスについて説明する。 ※実際に操作しながらPhotoshopの機能の概要に触れる。
3	演習(1)-選択範囲の作成-	<ul style="list-style-type: none"> ●選択範囲の作成 ※使用アプリ：Adobe Photoshop →選択範囲を作成するツールの概要について解説する。 また、演習を通して基本的な選択範囲の作成方法を学習する。
4	演習(2)-ペイント系ツールの学習-	<ul style="list-style-type: none"> ●ペイント系ツールの学習 ※使用アプリ：Adobe Photoshop →画像を描画するペイント系ツールの概要について解説する。 →演習を通してペイント系ツールの使用方法について学習する。
5	演習(2)-ペイント系ツールの学習-	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータの色彩表現 →ペイント系ツールの使用方法について理解を深めるとともに、コンピュータの色彩表現の仕組みと各特性について学習する。
6	演習(3)-レタッチ系ツールの学習-	<ul style="list-style-type: none"> ●レタッチ系ツールの学習 →画像補正を行なうためのレタッチ系ツールの概要について解説する。 →演習を通してレタッチ系ツールの使用方法について学習する。
7	演習(4)-レイヤーを使用した画像編集-	<ul style="list-style-type: none"> ●レイヤーの操作 →レイヤーの概念とその基本的な使用方法について解説する。 →演習を通して、レイヤーを使用した画像編集の方法について学習する。
8	演習(4)-レイヤーを使用した画像編集-	<ul style="list-style-type: none"> ●画像の変形 →レイヤーを使用した画像の変形操作とその機能活用の方法について学習する。
9	演習(5)-色の補正-	<ul style="list-style-type: none"> ●画像の色補正 →色の補正機能について概要を解説する。コンピュータの色彩表現の仕組みについて理解を深める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	Draw系アプリケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ●Draw系アプリケーションについて説明する。 →Draw系アプリケーションとベクトル画像について理解する。 ●Illustratorのインターフェイス →実際に使用するドロー系アプリケーションIllustratorのインターフェイスについて説明する。 ※実際に操作しながらIllustratorの機能の概要に触れる。
11	演習(6)-ベジェ曲線による描画-	<ul style="list-style-type: none"> ●基本形体の描画 →基本形体の描画ツールの使用方法を解説する。 →演習を通して、ベクトル画像についての理解を深める。
12	演習(6)-ベジェ曲線による描画-	<ul style="list-style-type: none"> ●ベジェ曲線の描画(1) →ベジェ曲線（一般に自由曲線と呼ぶ）の描画方法について解説する。 →演習を通して、ベジェ曲線による描画方法について理解する。
13	演習(6)-ベジェ曲線による描画-	<ul style="list-style-type: none"> ●自由曲線の描画(2) →ベジェ曲線の描画方法について解説する。 →演習を通して、ベジェ曲線による描画方法について理解を深める。
14	課題-レイヤーによる画像合成-	<ul style="list-style-type: none"> ●課題「レイヤーによる画像合成」 →Paint系、Draw系アプリケーションを活用して、画像合成表現を行なう。
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●講評 →課題作品の講評を行なう。

科目名	CG基礎Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	Ⅱ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①コンピュータによる造形表現を行なう上で必要とされる基本的知識と技術を理解すること。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①グラフィックアプリケーション（Paint系、Draw系）の操作方法を学修する。 ②Paint系、Draw系アプリケーションにおいて、オブジェクトの選択・描画・編集・カラー設定・レイヤー操作を学修する。 ③スキャナー、プリンター、デジタルカメラの操作方法を学修する。</p> <p><主な課題制作></p> <p>①DoubleExposureの制作 ②LowPolygonの制作 ③Scanimationの制作</p>		
達成目標	<p>①コンピュータ・グラフィックス技術の理解が為されている。 ②グラフィックアプリケーションの操作方法を習得している。 ③コンピュータ周辺機器の操作方法を習得している。 ④コンピュータによる造形表現の特性が理解できている。</p>		
受講資格	地域創成学科 1年	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。 ①課題作品の制作過程（40%） ②課題作品（40%） ③課題作品の提出状況（20%）
教科書	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 ・当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。 		
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室		
自学自習	事前学習：当日の授業内容をテキストで確認しておくこと（1時間以上） 事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること（1時間以上）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	CG基礎Ⅱの授業目標と授業内容について説明する。
2	doubleExposureの制作①	doubleExposureの制作を通して、ペイント（Paint）系ソフトウェアの操作方法について理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題を説明する。 ・アイデアを検討する。 ・素材となる画像を撮影、もしくは収集する。
3	doubleExposureの制作②	・Paint系ソフトウェア（Photoshop）で編集・加工する →ペンツールによる選択範囲の作成方法を理解する。 →アルファチャンネルの理解を深める。
4	doubleExposureの制作③	・Paint系ソフトウェア（Photoshop）で編集・加工する →レイヤーの描画モードを理解する。 →レイヤーマスクの操作方法を理解する。
5	doubleExposureの制作④	・編集した画像を指定のフォーマットに従って出力する。 ・講評を行う。
6	LowPolygonの制作①	LowPolygonの制作を通して、ドロー（Draw）系ソフトウェアの操作方法について理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題を説明する。 ・アイデアを検討する。 ・素材となる写真を撮影する。
7	LowPolygonの制作②	ドロー（Draw）系ソフトウェアで編集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・素材写真を下絵にして、ベジェ曲線でLowPolygon風に描画する。 →ペンツールの使用方法の理解を深める。
8	LowPolygonの制作③	ドロー（Draw）系ソフトウェアで編集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・素材写真を下絵にして、ベジェ曲線でLowPolygon風に描画する。 →ベジェ曲線の編集方法について理解を深める。
9	LowPolygonの制作④	・編集した画像を指定のフォーマットに従って出力する。 ・講評を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	Scanimationの制作①	Scanimationの制作を通して、ドロー（Draw）系ソフトウェアの操作方法について理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題を説明する。 ・アイデアを検討する。 ・手書きでアニメーションのコマを描画する。
11	Scanimationの制作②	ドロー（Draw）系ソフトウェアで編集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・手書きのアニメーションをコンピュータに取り込む。 ・ベジェ曲線で形態を整える。 →ペンツールの使用方法の理解を深める。
12	Scanimationの制作③	<ul style="list-style-type: none"> ・ベジェ曲線で形態を整える。 →ベジェ曲線の編集方法について理解を深める。 →ペンツールの使用方法の理解を深める。
13	Scanimationの制作④	ドロー（Draw）系ソフトウェアで編集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ベジェ曲線で描画されたオブジェクトをScanimation用に加工する。 →パスファインダ機能の操作方法を理解する。
14	Scanimationの制作⑤	ドロー（Draw）系ソフトウェアで編集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ベジェ曲線で描画されたオブジェクトをScanimation用に加工する。 →レイヤーの操作方法の理解を深める。
15	Scanimationの制作⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・編集した画像を指定のフォーマットに従って出力する。 ・講評を行う。

科目名	水彩表現	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅱ		
授業概要	水彩絵の具は水を加えるだけで手軽に使用でき、誰もが子供の頃、手にした事のあるなじみの深い彩色材料です。しかも他の描画材料との併用も容易であり、この素材的特性から水彩画は柔軟性にとみ、多くの可能性を秘めた表現媒体であるといえます。		
達成目標	授業では、水彩絵の具のほかにその他の水性絵の具の使用方法も含めて、それらの素材的特性の理解と技術の習得を目指し、技法の開拓を図ることにより更に水彩画の表現の可能性を追究していきます。		
受講資格	地域創成学科1年生	成績評価 方法	①授業目標の達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	水彩絵の具の表現方法の工夫。例えばティッシュで拭き取ったり、ニードルで引っ掻いたりと様々な表現を納得のいくまで追求すると共に制作そのものを楽しみましょう。また、空き時間を利用して画材に触れるよう心掛けてください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo2. デザイン室で受けます。		
自学自習	①事前学習 画材などの準備物も含めて授業内容をシラバスで確認してください(30分) ②事後学習 授業課題で取り組んだことを踏まえて作品集を見たり、美術館などで実物に触れる機会を得てください(1時間以上)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の目標と内容について、および授業の進め方について話します。 水彩画の特色と歴史および用具と材料について話します。 透明絵の具と不透明絵の具、透明描法と不透明描法について説明します。
2	風景画	キャンパス風景写生の制作をします。校舎内外の描きたい場所を選びます。 作品参考例により構図(近景、中景、遠景の関係と組み合わせ等)を考えます
3	風景画	○キャンパス風景写生 キャンパスの描きたい所2~3箇所をスケッチして淡彩で塗ります。クロッキーやデッサンには鉛筆、コンテ、各種の素材を試みましょう。
4	風景画	○キャンパス風景写生 大気に漂う瑞々しい季節感を肌で感じ取りながら、描いている対象の中心(主題)を見極めて行きましょう。
5	風景画	○キャンパス風景写生 淡彩スケッチ2~3枚の中から制作場所を選び、四つ切り水彩用紙(コットマン紙)に描きます。
6	風景画	○キャンパス風景写生 主題と構図の関係を考えながらデッサンしましょう。対象の風景に含まれるいろいろな物には省略や移動を加えて 効果的な構図を考えましょう。
7	風景画	あくまでも自分の描きたい場所で、楽しく制作を進めることが大切です。 彩色に入ります。(透明描法、不透明描法の何れでもよいです。)
8	風景画	各自の主題、コンセプトに合わせ、基調色を選びましょう。 全体の色調のバランスを考えながら、大まかに色を置いていきます。
9	風景画	細部に拘らずに太めの筆でのびのびと彩色しましょう。 構図や色調が各自の主題表現に沿っているかどうか確認しながら、追究し、加筆しましょう。
10	風景画	キャンパス風景写生を完成させる。担当教員が講評する。
11	静物画	各自が描きたいモチーフを選び、2箇所モデルを設置します。(2グループでモデル設置作業を行います。) 写生による写実的表現を原則としますが、心象的表現を試みてもかまいません。
12	静物画	2種類のモデルより一つ選びます。 複数のモチーフの中から各自描きたいものを選び、画面構成を考えながらデッサンします。 モチーフは多すぎないように注意しましょう。 半切または全紙の水彩用紙を使用します。
13	静物画	画面上でのモチーフの省略や移動も試みて、各自のコンセプトをより明確に表現できるような構図を考えましょう。
14	静物画	単なる写生に止まらず、モチーフに対する感情移入を大切にして、心象表現の試みなども可能です。表現の方針が決まり、デッサンが済んだら彩色に入ります。色は透明描法、不透明描法および両者の併用など各自のコンセプトに合わせて使い分けましょう。
15	静物画	作品を完成させる。最後に教員がこの授業で学んだ風景画、静物画に対しての講評を行う。

平成30年度

科目名	版画基礎	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	I		
授業概要	版画の基本的版種を実習を通して学んでいく。手作業やパーソナルコンピュータによる制作も加え授業を展開していく。		
達成目標	版画表現の豊かさを感じ、人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。		
受講資格	地域創成学科 1年生	成績評価 方法	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。 (配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)
教科書	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	多種多様な素材と表現方法により未だ経験のしたことのない表現を体験するために、各版種の面白さを実感し、可能な限り版から得るイメージを想像し膨らませ制作してください。日頃から版から受けるイメージを想像し、学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週月曜日を除く平日(9:00~17:00)の授業のない時間にNo2.デザイン室で受けます。		
自学自習	①事前学習 画材などの準備物も含めて授業内容をシラバスで確認してください(30分) ②事後学習 授業課題で取り組んだことを踏まえて作品集を見たり、美術館などで実物に触れる機会を得てください(1時間以上)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	版画とはどういう物なのか。歴史と人に与える影響などを解説する。
2	木版画の基礎	木版画と言っても表現の幅はいろいろで、簡単な表現から高度な表現までを学びます。
3	銅版画の基礎	銅版画の直接技法と間接技法を学びます。
4	石版画の基礎	石版画は現代において主流をなす印刷手段であるオフセット印刷の基本であることを学びます。
5	シルクスクリーンの基礎	古来より用いられて来た技法から、現在使われている特殊な印刷方法までを学びます。
6	デジタル版画の基礎	21世紀になってますます発展して来たデジタルを、アナログではない版として認識した版画の意味と表現を学びます。
7	版種の併用	今まで学んだ様々な版形式を併用して、単独の版種では得られない効果を学びます。次回より自由制作に入るので作品のイメージを考えます。
8	版画制作	ここまで学んだ版種を基に、それぞれの版種を選びまた併用して、作品を制作していきます。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。
9	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの様々な技法に取り組みます。
10	版画制作	技法を身につけるために、失敗を恐れなくて試し刷りをしながら制作してください。
11	版画制作	技法が身に付いて来たところで、自分で考えたイメージを作品にしていきます。
12	版画制作	試し刷りを重ねながら、加えるところ、削るところを調整していきます。紙によっても刷られた表情が違うので、いろいろな紙で刷りを試みてください。
13	版画制作	完成を視野に入れながら版の調整、色の調整などをします。
14	版画制作	作品を完成させる。
15	版画制作	完成した作品の扱い方や、展示方法などを説明しながらm教員が講評する。

平成30年度

科目名	図書館サービス概論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	Ⅱ		
授業概要	公共図書館をはじめとする各館種で行われている「図書館サービス」の種類とそのあらましを学びます		
達成目標	図書館サービスの内容を覚え、図書館で働く際はもとより、図書館を利用する側になったときも、的確なサービスを選択し図書館を効率的に利用できる社会人になる		
受講資格	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績評価 方法	レポート5割、期末試験5割
教科書	講義ではその都度プリントを配布します		
参考書	参考書よりも、自ら図書館利用者となって足繁く通い、実際に様々なサービスを楽しむことが講義の参考になります		
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	普段は大学図書館にあります。月曜～金曜 8:30-17:05		
自学自習	日頃より図書館情報学以外の幅広い分野に興味関心を持ち、図書館における情報サービスの展開に必要な知識を習得することに心がけてください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	「図書館サービス」のあらまし：意義と理念
2	館種によるサービスの違い	公共、大学、学校、専門の各館種それぞれの図書館サービスとその差異
3	貸出サービス	『市民の図書館』に由来する「貸出し」と貸出至上主義からの脱却
4	読書相談サービス	資料選択のお手伝い
5	レファレンスサービス	課題解決型サービス、ビジネス支援サービス
6	イベントの提供	ビブリオバトル、TRPG、ぬいぐるみお泊まり会ほか
7	主題別サービス	法情報、医療情報（闘病記文庫など）、地域資料（郷土資料）ほか
8	利用者支援サービス	以前は「利用者教育」と称した、図書館利用者への図書館利用と情報リテラシーの習得を支援する図書館活動について
9	アウトリーチサービス	図書館に来館せずに利用できるデリバリーサービスやホームページを通じた情報提供
10	図書館による情報発信	図書館サービスに関する情報発信（図書館からのお知らせ）に留まらない情報発信のあり方
11	多文化サービス	民族的、言語的、文化的少数者（マイノリティ）へのサービス
12	高齢者へのサービス	認知症のひととその家族へのサービス、ほか
13	子供向けのサービス	児童サービス、ヤングアダルト（YA）サービスほか
14	障害のあるひとへのサービス	視覚、聴覚、身体、精神にそれぞれ障害のあるひとへの、図書館のアプローチ
15	講義のまとめ	「図書館サービス」の今後の展望を考える

平成30年度

科目名	情報資源組織論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	和知 剛		
開講期	I		
授業概要	図書館業務において「混沌（カオス）」から「秩序（コスモス）」を作り出し、利用者に必要な情報資源を提供しやすくしておくことの手段のひとつが「情報資源の組織化」であることを学ぶ		
達成目標	情報資源および情報資源の組織化に関する基礎的な知識を修得することを目標とする		
受講資格	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績評価 方法	レポート4割、期末試験6割で評価します。
教科書	プリントをその都度配布します		
参考書	『知識資源のメタデータ』（谷口・緑川）、『情報資源の組織化と提供』（根本・岸和田）など		
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。		
オフィスタイム	講義・演習以外は通常大学図書館にあります。月曜～金曜 8:30-17:05		
自学自習	日頃より図書館情報学以外の幅広い分野にも興味関心を持ち、図書館における情報サービスの展開に必要な知識を習得することに心がけてください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	イントロダクション	自己紹介と講義の目的
2	「情報資源」とは何か	情報(information)、情報資源(information resource)についてそれぞれ考える
3	「情報資源」とは何か (2)	「データ→情報→知識→知恵」という定説を疑い、「Information→分析→Intelligence」という流れを併せて考える
4	メタデータとは何か(1)	「情報資源」の組織化とは、情報資源が図書館業務においてどのような状態になることか
5	メタデータとは何か(2)	所蔵/所有を超えた情報資源の「目録化」
6	図書館と「目録化」	混沌から秩序を生み出し、図書館利用者が必要としている情報資源を必要なときに提供するための仕事としての目録作成について
7	図書館目録の簡単な歴史	FRBR/RDAに至る目録規則の話
8	書誌コントロールとMARC	書誌コントロールの歴史と標準化
9	書誌ユーティリティとコピーカタログ	書誌ユーティリティの構築とコピーカタログの導入に伴う目録作成の合理化と目録作成業務の地位低下
10	インターミッション	ここまでのおさらい
11	日本目録規則のはなし	日本における「目録法」の歴史と現在
12	日本十進分類法のはなし	日本における「分類法」の歴史と現在
13	OPACの簡単な歴史	OPAC (Online Public Access Catalog) の歴史と現在
14	OPACの未来	リンクリゾルバ/ディスカバリーサービス/OPACのGoogle化
15	まとめ	図書館目録の「未来への展望」はありやなしや

平成30年度

科目名	博物館資料論	対象 単位数 必選	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	Ⅱ		
授業概要	博物館・文書館・図書館における歴史資料の管理・取り扱い方・目録作成の方法を学ぶ。 ①博物館ほか社会教育機関における歴史資料の重要性、活用方法、保存管理方法などを学ぶ。 ②歴史資料の取り扱い方法、史料の整理方法などの実例を紹介・実践し、博物館ほか社会教育機関における歴史資料の活用及び保存管理する意義を考察する。		
達成目標	歴史資料の取り扱い、活用・保存における基礎的知識を習得し、適切な学芸員能力を育成する。		
受講資格	文化学科1年生	成績評価 方法	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版、1997年 安藤正人『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年 林英夫監修『新編 古文書解読事典』柏書房、1993年 ほか適時指示する。		
学生への要望	次年度実施予定の「博物館実習」の課外実習に臨むための重要な講義となっているので、問題意識を持って受講し、講義内容を復習すること。また、博物館の展示を出来るだけ多く観覧し、関連する資料や文献を講読すること。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅱ時間目。創学館4階、No.4研究室		
自学自習	事前学修：提示されている参考書及び博物館に関する文献を読む(1時間) 事後学修：授業時配布プリントによる復習(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入 (ガイダンス)	歴史資料 (主に博物館資料) とは何かを概説し、今後の授業計画を説明する。
2	資料化の過程	博物館における資料 (モノ) の収集から整理、管理、活用までの過程を学ぶ。
3	資料の収集 (1)	博物館など社会教育機関における資料の収集は、その館の基本的性格や目的にそって行うことが重要となってくる。そこで、資料収集における理念と原則について考える。
4	資料の収集 (2)	博物館など社会教育機関における資料 (モノ) の収集の方法について、どのような手法によって収集するのかを検証する。
5	資料の整理方法 (1)	収集・受け入れを行った資料は、分類を行い整理され、登録し管理される。そこで、収蔵されるまでの過程を学ぶ。
6	資料の整理方法 (2)	資料は整理される際に史料概要の情報を資料カードや目録作成によってデータ化し管理する。その意義と方法について考える。
7	資料の整理方法 (3)	博物館など触れる機会の多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。
8	資料の整理方法 (4)	目録を作成するために必要な古文書の取扱い方、読み方について説明する。また、実際に古文書を読んで古文書の読み方を学ぶ。
9	資料の整理方法 (5)	古文書の読み方について学び、そこから実際に古文書を読んで目録作成を実践する。また、目録作成の過程やデータ化される資料の情報内容について考える。
10	資料の保存と活用 (1)	博物館ほか社会教育機関では、収蔵資料の資料および作成した目録データの公開が行われている。そこから、資料の活用方法また、データの管理について考察する。
11	資料の保存と活用 (2)	博物館では、研究紀要などの研究成果を発表する刊物物が出版されている。では、博物館における調査・研究について、何を対象とし、いかなる方法があるのかを検証する。
12	資料の保存と活用 (3)	博物館において、収集され登録された資料は収蔵庫に保存され、管理される。それにあたって、収蔵資料の保存方法や収蔵庫の条件・環境などが課題となる。資料の保存方法について検証する。
13	資料の保存と活用 (4)	資料は受け入れする際、その資料の状態は様々である。そのため、収蔵庫で管理するために、資料の処理や修復・修理が行われる。以上について、実例をいくつか紹介し、資料保存の在り方について考える。
14	資料の保存と活用 (5)	資料公開は、展示が代表的なものとなるが、研究者や市民への資料閲覧なども行われている。そして、近年では資料の画像データ化し、インターネット公開を行う機関が増加している。これらの公開方法について検証する。
15	まとめ～今後の史資料活用や保存～	これまでの講義を念頭に置きつつ、資料を保存管理、活用する側とその利用者側との関係や、資料保存や活用における今後について展望する。